

平成31年度・令和元年度

湧別町教育委員会  
点検・評価報告書

令和2年9月

湧別町教育委員会

## もくじ

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	(1) 趣旨	
	(2) 点検・評価の対象	
	(3) 点検・評価の流れ	
2	教育委員会の活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	(1) 教育委員会会議の開催及び審議状況	
	(2) 教育委員会会議の項目別点検	
	(3) 教育委員会会議以外の活動状況	
3	点検評価報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	(1) 学校教育	
	No. 1 学校運営事業 (地域に期待・信頼される学校づくり)	
	No. 2 〃 (学力向上)	
	No. 3 〃 (安全・安心な学校づくり)	
	No. 4 〃 (豊かな心と健やかな体の育成)	
	No. 5 〃 (特別支援教育の推進)	
	No. 6 〃 (就学支援の充実)	
	No. 7 中高一貫教育推進事業	
	No. 8 北海道湧別高等学校存続対策事業	
	No. 9 国際理解教育事業	
	No. 10 学校運営協議会事業	
	No. 11 学校給食センター運営事業	
	(2) 社会教育	
	No. 1 社会教育振興事業 (家庭教育)	
	No. 2 〃 (少年教育)	
	No. 3 〃 (青年教育)	
	No. 4 〃 (成人教育)	
	No. 5 〃 (高齢者教育)	
	No. 6 スポーツ振興事業	
	No. 7 芸術文化活動振興事業	
	No. 8 文化財保護活動・博物館活動	
	No. 9 図書館活動振興事業	
4	事業実績表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
	(1) 令和元年度学校教育事業の実績表	
	(2) 令和元年度社会教育事業の実績表	
5	外部評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48
6	参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51
	(1) 平成31年度 教育行政執行方針	
	(2) 湧別町教育目標、湧別町学校教育目標、湧別町社会教育目標	

## 1 はじめに

### (1) 趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会において、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

このことを受け、湧別町教育委員会は効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、教育委員会の事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、学識経験者の意見を付して報告書を作成・公表しております。

### (2) 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、教育委員会の活動状況等の点検のほかに、平成31年度教育行政執行方針に掲げられた主要な事業の実施状況について点検・評価を行いました。

### (3) 点検・評価の流れ

「教育委員会会議の活動状況」等については、教育委員会会議の開催状況や会議に付議された案件等について、項目別に点検を行うとともに、委員が出席した学校行事等の点検を行いました。

「点検・評価報告書」については、「平成31年度教育行政執行方針」に掲げられた主要な事業の内容、事業成果、自己評価及び今後の課題と方策を所管課が作成するとともに、点検・評価の客観性を確保するため、点検・評価の方法や結果などについて学識経験を有する方からのご意見を聴取しています。

**【参考】**

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 教育委員会の活動状況

### (1) 教育委員会会議の開催及び審議状況

湧別町教育委員会の会議は原則として、毎月1回の「定例会」と、必要に応じて開催する「臨時会」があり、平成31年度並びに令和元年度は、合計13回の会議を開催しました。

この会議において、教育行政の基本方針の決定、教育に関する規則の制定など、様々な議題について審議等を行っております。

期 日	付議案件等 (○～報告、□～議案、△協議)
31.4.25 【定例】	<input type="radio"/> 平成31年度湧別町交換留学事業の実施について <input type="checkbox"/> 湧別町交換留学事業派遣留学生の決定について <input type="checkbox"/> 湧別町立学校職員の自家用車の公用使用に関する要綱の一部を改正する要綱の制定について <input type="checkbox"/> 湧別町社会教育関係団体補助金交付要綱の一部を改正する要綱の制定について <input type="checkbox"/> 平成31年度教育費予算の補正について <input type="checkbox"/> 学校運営協議会を設置する学校の決定について <input type="checkbox"/> 学校運営協議会委員の解任および任命について <input type="checkbox"/> 湧別町学校給食センター運営委員の委嘱について <input type="checkbox"/> 湧別町社会教育委員の解職について <input type="checkbox"/> 湧別町社会教育委員の委嘱について <input type="checkbox"/> 湧別町図書館協議会委員の任命について <input type="checkbox"/> 平成31年度奨学生の決定について
元.5.30 【定例】	<input type="radio"/> 第34回サロマ湖100kmウルトラマラソンの開催について <input type="checkbox"/> 湧別町相互交流事業ニュージーランド・セルウィン町派遣事業参加者の決定について <input type="checkbox"/> 施設整備計画の事後評価について <input type="checkbox"/> 令和元年度湧別町社会教育推進計画の策定について <input type="checkbox"/> 令和元年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について
元.6.12 【定例】	<input type="checkbox"/> 令和元年度教育費予算の補正について <input type="checkbox"/> 学校運営協議会委員の任命について
元.7.25 【定例】	<input type="checkbox"/> 湧別町スクールバス運行要綱の制定について <input type="checkbox"/> 教員住宅の用途廃止について <input type="checkbox"/> 令和元年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について

期 日	付議案件等（○～報告、□～議案、△協議）
元.8.21 <b>【定例】</b>	<input type="checkbox"/> 湧別町スポーツ・文化合宿誘致事業補助金交付要綱の一部を改正する要綱の制定について <input type="checkbox"/> 令和2年度から小学校及び義務教育学校前期課程において使用する教科用図書の採択について <input type="checkbox"/> 令和2年度から中学校及び義務教育学校後期課程において使用する教科用図書の採択について <input type="checkbox"/> 令和元年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について △令和元年度全国学力・学習状況調査の結果公表について
元.9.12 <b>【定例】</b>	<input type="checkbox"/> 湧別町体育施設条例の一部を改正する条例の制定について <input type="checkbox"/> 湧別町体育施設条例施行規則の一部を改正する規則の制定について <input type="checkbox"/> 令和元年度教育費予算の補正について <input type="checkbox"/> 学校運営協議会委員の任命について <input type="checkbox"/> 平成30年度教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書について
元.10.28 <b>【定例】</b>	<input type="radio"/> 教育委員会委員の任命の同意について
元.11.19 <b>【定例】</b>	<input type="radio"/> 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果の公表内容について <input type="checkbox"/> 北海道湧別高等学校存続対策事業実施要綱の一部を改正する要綱の制定について <input type="checkbox"/> 湧別町相互交流事業実施要綱の一部を改正する要綱の制定について <input type="checkbox"/> 湧別町交換留学事業実施要綱の一部を改正する要綱の制定について <input type="checkbox"/> 湧別町学校体育文化活動費助成要綱の一部を改正する要綱の制定について <input type="checkbox"/> 令和元年度教育費予算の補正について <input type="checkbox"/> 湧別町学校給食センター運営委員の委嘱について <input type="checkbox"/> 令和元年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について △令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果公表について

期 日	付議案件等（○～報告、□～議案、△協議）
元.12.12 【定例】	□学校運営協議会委員の解任について
2.1.23 【定例】	□令和2年度教育委員会関係当初予算について
2.2.25 【定例】	<p>○令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果公表内容について</p> <p>□湧別町青少年問題協議会条例を廃止する条例の制定について</p> <p>□湧別町教育支援委員会設置条例の制定について</p> <p>□湧別町学校医等の設置に関する条例の一部を改正する条例の制定について</p> <p>□湧別町教育支援委員会設置規則を廃止する規則の制定について</p> <p>□湧別町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>□湧別町招致外国青年任用規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>□湧別町臨時教諭の採用に関する規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>□湧別町教育アドバイザーの任用に関する規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>□湧別町学校管理規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>□湧別町立の小学校、中学校及び義務教育学校専門事務主任・指導専門員の命課基準の制定について</p> <p>□湧別町立の小学校、中学校及び義務教育学校専門事務主任・指導専門員の命課基準に関する取扱要領の制定について</p> <p>□湧別町立の小学校、中学校及び義務教育学校事務主幹の命課基準の一部を改正する基準の制定について</p> <p>□湧別町立の小学校、中学校及び義務教育学校事務主幹の命課基準に関する取扱要領の一部を改正する要領の制定について</p> <p>□湧別町立の小学校、中学校及び義務教育学校事務主任の命課基準の一部を改正する基準の制定について</p> <p>□湧別町立の小学校、中学校及び義務教育学校事務主任の命課基準に関する取扱要領の一部を改正する要領の制定について</p>

期 日	付議案件等（○～報告、□～議案、△協議）
	<input type="checkbox"/> 湧別町特別支援教育支援員配置事業実施要綱の一部を改正する要綱の制定について <input type="checkbox"/> 湧別町理科支援員配置事業実施要綱の一部を改正する要綱の制定について <input type="checkbox"/> 湧別町学力向上支援員配置事業実施要綱の一部を改正する要綱の制定について <input type="checkbox"/> 令和元年度教育費予算の補正について <input type="checkbox"/> 学校における働き方改革「湧別町アクション・プラン」の改訂について <input type="checkbox"/> 湧別町学校施設長寿命化計画（案）について <input type="checkbox"/> 令和元年度及び令和2年度準要保護児童生徒の認定について <input type="checkbox"/> 令和2年度教育行政執行方針について <input type="checkbox"/> 令和2年度教育費予算について
2.3.19 【定例】	○新型コロナウイルス感染拡大防止に係る対応について <input type="checkbox"/> 湧別町学校運営協議会規則の一部を改正する規則の制定について <input type="checkbox"/> 修学旅行の引率業務等に従事する湧別町立学校職員の勤務時間の割り振り等に関する要領の一部を改正する要領の制定について <input type="checkbox"/> 湧別町学校医等の任命について <input type="checkbox"/> 湧別町教育アドバイザーの任命について <input type="checkbox"/> 令和2年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について <input type="checkbox"/> 校長・教頭の任免の内申について
2.3.30 【臨時】	○教職員の人事異動について <input type="checkbox"/> 教育委員会教育長職務代理者の指名について <input type="checkbox"/> 湧別町教育支援委員会委員の委嘱について <input type="checkbox"/> 湧別町学校運営協議会委員の解任及び任命について <input type="checkbox"/> 湧別町社会教育委員の解嘱について <input type="checkbox"/> 湧別町スポーツ推進委員の解嘱について <input type="checkbox"/> 湧別町図書館協議会委員の解任について <input type="checkbox"/> 令和2年度湧別町立小学校、中学校及び義務教育学校の学級編制について <input type="checkbox"/> 湧別町学校施設長寿命化計画の策定について <input type="checkbox"/> 教育委員会所管職員の事務分掌異動について



## (2) 教育委員会会議の項目別点検

湧別町教育委員会行政組織規則第6条の規定により、教育委員会会議での議決が必要である事項のうち、平成31年度・令和元年度において教育委員会会議にかけられた議案等を分類し、適切に付議されているかどうか点検を行いました。

項 目	件数
① 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関する事	8
② 教科用図書採択に関する事	2
③ 法規たる性質を持つ教育委員会告示に関する事	13
④ 学校教育及び社会教育に関する一般方針の定めに関する事	1
⑤ 学級編成に関する事	1
⑥ 道費負担教職員たる校長及び教頭の任免その他進退ついでの内申に関する事	1
⑦ 歳入歳出予算の要求その他議会の議決を経るべき事項に関する事	5
⑧ 奨学金に関する事	1
⑨ 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関する事	1
⑩ 教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価に関する事	2
⑪ 法令又は条例に基づく委員等の任命（委嘱）に関する事	16
⑫ 要保護及び準要保護児童生徒の認定に関する事	5
⑬ 国際理解教育に関する事	2
⑭ その他異例又は重要な事項に関する事	2
⑮ 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員の任免その他の人事に関する事	2
報告	7
協議	2

平成31年度・令和元年度に湧別町教育委員会会議に付議された案件のうち、多かったものとしては、法令又は条例に基づく委員等の任命（委嘱）に関する事「⑪」、そして法規たる性質を持つ教育委員会告示に関する事「③」であり、教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関する事「①」が次いでおります。

教育委員会会議の議案作成のため、議案審議の他に協議を実施しています。

(3) 教育委員会会議以外の活動状況

教育委員会委員は教育委員会会議のほか、研修会、先進地視察、学校訪問の活動、各学校の入学式、卒業式、各種行事、湧別町議会や各種式典にも出席しております。

学校訪問では、学校での教育活動について校長から報告を受け、意見交換等を行っております。  
※教育長を除く

期 日	活 動 内 容	出席委員数
31. 4. 2	教職員辞令交付	4名
31. 4. 6	小・中・義務教育学校入学式	4名
31. 4. 10	赴任校長・教頭歓迎会	4名
31. 4. 15	遠軽地区教育委員会協議会理事会	1名
元. 5. 8	遠軽地区教育委員会協議会総会	4名
元. 5. 25	上湧別小、中湧別小運動会訪問	4名
元. 5. 26	富美小、湧別中運動会訪問	3名
元. 6. 1	上湧別中、芭露学園運動会訪問	4名
元. 6. 2	湧別小運動会訪問	1名
元. 6. 12	小学校訪問（富美小、上小、中小）	4名
元. 6. 26	小学校訪問（開盛小、湧別小）、湧別高校訪問	4名
元. 7. 2	オホーツク管内教育委員会協議会総会	1名
元. 7. 11	北海道市町村教育委員研修会	3名
元. 10. 19	上湧別中学校祭	1名
元. 10. 20	湧別中学校祭	1名
元. 10. 26	芭露学園学校祭	1名
元. 10. 27	開盛小学芸会	1名
元. 11. 2	湧別小学芸会	1名
元. 11. 8	財務行政懇話会	1名
元. 11. 10	上湧別小、中湧別小、富美小学芸会	3名
元. 11. 19	学校訪問（上湧別中、湧別中、芭露学園）	4名
元. 12. 9	オホーツク管内市町村教育委員大会	2名
元. 12. 12	湧別町総合教育会議	3名
2. 1. 12	湧別町成人式	2名

### 3 点検評価報告書

#### (1) 学校教育

No.	1	事業名	学校運営事業（地域に期待・信頼される学校づくり）	担当課	教育総務課
執行方針	<p>子どもたちが、安全で快適な学校生活を送ることができるよう、学校、家庭、地域が互いに連携し、質の高い教育活動を推進してまいります。</p> <p>教員は、豊かな人間性や社会性、そして高い指導力などの資質・能力が求められておりますことから、分かる授業の実践を基盤とした校内研修の充実はもとより、各種研修会や研究会などへの参加を促進し、指導力の向上を図ってまいります。</p> <p>現在、学校には、学習指導要領のねらいや社会からの要請等を踏まえ、児童生徒に対する指導を一層充実させることが期待されており、その実現に向けては、道内全ての学校で、教員が授業や授業準備等に集中し、健康でいきいきとやりがいをもって勤務しながら、学校教育の質を高められる環境を構築することが必要であり、教員が子どもと向き合う時間を確保するための取組の充実が喫緊の課題となっております。</p> <p>こうした状況を踏まえ、平成30年3月道教委が主導して、道内の全ての学校において、働き方改革を行うため、業務改善の方向性を示した「学校における働き方改革『北海道アクション・プラン』」が作成されましたので、教育委員会におきましては、北海道アクション・プランに則り、町立学校における働き方改革を進めるための計画等の作成に努めてまいります。</p> <p>また、平成30年4月、本町で初となる義務教育学校「芭露学園」が開設されました。芭露学園は9年間一貫した教育目標のもと、教科担任制を導入し、各教科の専門性を生かした指導により、学びの連続性が生まれ、個の能力をさらに伸ばすことができるといった特徴ある小中一貫校であります。</p> <p>今後におきましては、義務教育学校導入による児童生徒の学習内容や学校生活、前期課程と後期課程の教職員の意識面の変化等について、教育効果の検証を行い、湧別町が目指す小中連携教育の取り組みに反映してまいります。</p> <p>学校配置につきましては、児童生徒により良い教育環境を提供できる適正規模の学校を将来にわたって提供していくことが重要であります。このため今年度から将来の学校配置のあり方について検討を進めることとし、特に老朽化がすすむ湧別小学校については、今後の児童数の推移を見ながら小中連携教育を基本とした施設整備について検討を進めてまいります。</p>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 赴任教職員地域研修、普通救命講習の実施・北海道教育委員会が実施する教職員研修への参加奨励</li> <li>2 湧別町アクションプランに基づく働き方改革の推進</li> <li>3 義務教育学校「芭露学園」の検証</li> <li>4 湧別小学校・湧別中学校の小中連携教育のための施設整備の検討</li> </ol>				
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 赴任教職員地域研修、普通救命講習の実施・北海道教育委員会が実施する教職員研修への参加奨励               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 赴任教職員地域研修を実施した。(実施回数1回、参加者20人)</li> <li>(2) 教職員普通救命講習を実施した。(実施回数1回、参加者17人)</li> <li>(3) 北海道教育委員会が実施する教職員研修への参加を各学校に奨励した。</li> </ol> </li> <li>2 湧別町アクションプランを一部改正し、教職員の在校等時間の上限等に関する</li> </ol>				

事業成果	<p>取り組みを徹底した。</p> <p>3 義務教育学校「芭露学園」の検証を実施 芭露学園の義務教育学校化による効果をまとめて報告書を作成した。9年間の小中一貫教育の中でカリキュラムを連続することや、前期課程での専科指導による学力向上や中一ギャップの解消など、義務教育学校の効果が確認できた。</p> <p>4 湧別小学校・湧別中学校の小中連携教育推進のため新校舎建設用地の取得交渉を進めた。</p>
課題	<p>1 赴任教職員地域研修は、地域学習を指導する教職員が限られた研修時間で地域についてより多くの情報を得る機会とするため、開催時期及び研修内容を検討し、参加しやすくする必要がある。また、学校における、児童生徒への安全指導の充実及び緊急事態に対応するため普通救命講習会の機会を提供する必要もあるが、日程の確保が難しい。教職員は、その職責を遂行するために絶えず研究と修養に努めなければならないことから、研修の機会を確保し必要な支援を継続する必要がある。</p> <p>2 教職員の業務改善を図り、働き方改革を進める必要がある。</p> <p>3 義務教育学校導入による教育効果の検証を継続し、その効果を他の学校においても活用するなど、学校の在り方を不断に探求していくことが必要である。</p> <p>4 小・中学校の統合に合わせて、教育内容を充実させ、魅力ある学校教育を展開させることが必要である。</p>
改善方策	<p>1 赴任教職員研修及び普通救命講習は、研修内容、開催時期及び開催内容を研究し、教職員の研修機会の確保及び研修に関する支援の充実に努める。北海道教育委員会又は各種研究団体が主催する研修等への参加支援を継続する。</p> <p>2 出退勤管理、業務改善、ICTの活用などを行い、教職員の働き方改革を継続して推進する。</p> <p>3 機会ごとに義務教育学校としての教育的効果を検証し、9年間一貫して教育を行う利点を活かした教育活動・教育環境について他校と共有し研究を続ける。</p> <p>4 先進校である芭露学園の義務教育学校導入による教育効果の検証結果をもとに小中一貫教育を推進する。</p>

No.	2	事業名	学校運営事業（学力向上）	担当課	教育総務課
-----	---	-----	--------------	-----	-------

執行方針	<p>本町の学力は、全国学力・学習状況調査では全国平均に比べ長年にわたり低い状態が続いており、特に家庭学習時間の不足など学校外における家庭学習の習慣化が大きな課題となっております。</p> <p>このため、教育委員会としては学校との連携により児童生徒の現状と課題を詳細に分析するとともに、各学校の取り組みを情報共有する体制をつくり、湧別町全体の学力向上を図ってまいります。</p> <p>あわせて、これら学校での学力向上の取り組みは、保護者及び学校運営協議会とも連携して地域とともに学力向上を図ってまいります。</p> <p>学校図書室は、町立図書館司書による学校図書室支援事業を継続し、児童生徒への読書活動の推進による学力向上に繋げてまいります。</p> <p>また、現在、小学校及び義務教育学校の3、4年生が社会科の授業において、ふるさと湧別を学ぶための資料として使用している社会科副読本「ゆうべつ」についてありますが、2020年度から小学校の学習指導要領が改訂となることに伴い、新しい学習指導要領に沿った副読本とするため、内容を見直し新たに作成を進めてまいります。</p>
------	---

事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教職員定数加配活用による指導方法の工夫・改善</li> <li>2 全国学力・学習状況調査結果（以下、本項目において「全国調査」という。）による学力向上改善プランの策定及び取組の推進</li> <li>3 長期休業期間中の児童への学習サポート事業の実施</li> <li>4 教育アドバイザーによる学校訪問の実施</li> </ol>
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教職員定数加配活用による指導方法の工夫・改善  教職員定数加配活用によるチームティーチングや習熟度別指導の実施により、学習内容の定着が図られた。  (1) 湧別小学校 算数におけるチームティーチング及び習熟度別指導の実施  (2) 湧別小学校 算数におけるチームティーチング及び習熟度別指導の実施  (3) 上湧別中学校 数学、英語におけるチームティーチング及び数学における習熟度別指導の実施  (4) 湧別中学校 理科、外国語におけるチームティーチング及び数学における習熟度別指導の実施</li> <li>2 全国調査の結果による学力向上改善プランの策定及び取組の推進  湧別町全体の結果を分析し、各学校に対し改善方針等を提示した。  各学校において、全国調査の結果を踏まえ、在籍児童生徒の確かな学力の向上に向けた学力向上改善プランを策定し、学習指導に活用する取り組みを継続した。  すべての学校で、北海道教育委員会が提供する「チャレンジテスト」を実施し、学習内容の定着を図るとともに、同じく「生活リズムチェックシート」を家庭での学習時間や生活習慣の見直しに活用した。</li> <li>3 長期休業期間中の児童への学習サポート事業の実施  湧別高校生徒の協力により、長期休業期間中の学習サポート事業をすべての小・義務教育学校で実施するとともに、学校独自でもサポート学習を行った。</li> <li>4 教育アドバイザーによる学校訪問の実施  定期的に学校を訪問し、学校経営への指導助言を行った。</li> </ol>
課題	<p>学力の向上を図るため、指導方法の工夫・改善による取り組みを実施しているが、全国調査の結果によれば湧別町の児童生徒の学力傾向は、依然として基礎的知識・活用力ともに課題があるため、授業等の指導方法を研究し改善する取り組みを継続する必要がある。</p> <p>全国調査の結果では、本町の小・中学校における各教科の平均正答率は、小学校算数のみ全道平均を超えたが、その他の教科で全道の正答率を下回っているため、質問紙調査の詳細な分析及び学校間交流など、学校力向上に向けた具体的な取り組みが必要である。</p>
改善方策	<p>各学校において、児童生徒の学力に応じた指導方法の工夫改善に努めるとともに、教育委員会、学校、家庭が一体となって学習習慣の定着に向けて取り組む。</p> <p>全国調査の結果を踏まえて、各学校が「学力向上改善プラン」の見直しを行い、それに基づいた学習指導を行うとともに、学力向上支援員を配置し、きめ細やかな指導を行う。</p> <p>学習習慣の定着を図るため、湧別高校生徒の協力を得て長期休業期間中の補充学習の機会を提供する。</p> <p>教育アドバイザーによる学校への指導助言を継続し、指導方法の改善方策の立案に対する支援を継続する。</p>

No.	3	事業名	学校運営事業（安全・安心な学校づくり）	担当課	教育総務課
執行方針	<p>学校は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習活動の場であり、住民の避難施設でもある学校施設の安全性の確保と施設環境向上のため、地域と連携・協力した地域ぐるみの防犯体制の整備・充実に努め、児童生徒の安心・安全を確保する教育環境整備をまいります。</p> <p>学校施設整備は、平成29年度までに全ての学校における校舎、体育館の耐震化が図られ、安全で安心して学習できる環境となりました。</p> <p>今後の施設整備は、国の方針に基づき、本年度は、学校施設における個別施設の長寿命化計画を策定してまいります。</p> <p>また、開盛小学校の煙突については、平成28年度に行った調査により集合煙突にアスベストの含有が認められ、煙突の劣化が進行していることが判明したことから、「町有施設煙突アスベスト改修実施計画」に基づき、煙突のアスベストを除去し安全の確保に努めてまいります。</p>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域ぐるみの防犯体制の整備</li> <li>2 湧別町学校施設長寿命化計画の策定</li> <li>3 開盛小学校煙突改修工事の実施</li> </ol>				
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域ぐるみの防犯体制の整備 各学校においてPTA等の地域関係者と連携し、登下校の通学路見守りなど、防犯体制・通学路の安全確保に取り組んだ。</li> <li>2 湧別町学校施設長寿命化計画の策定 湧別町学校施設長寿命化計画を策定し、学校施設の老朽化等を把握した上で、学校施設として求められる機能を確保するため、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減と予算の平準化を実現した具体的な方針・計画を示すことができた。</li> <li>3 開盛小学校煙突改修工事の実施 開盛小学校の集合煙突を改修しアスベストの除去を行った。</li> </ol>				
課題	<p>全国的には、通学中の児童生徒が交通事故に遭遇する事例は多く発生しており、オホーツク管内では不審者の出没情報もあることから、通学路における危険箇所の点検や学校・地域関係者との不審者情報の共有など、児童・生徒の安全を守る取り組みを継続する必要がある。</p> <p>学校施設長寿命化計画に基づき、継続的な改修、維持補修を実施する必要がある。</p> <p>学校施設は、計画的に改修を実施しているが、老朽化が進んでいる校舎等も存在しているため、具体的な現況調査と継続的な維持補修を実施する必要がある。</p>				
改善方針	<p>教育委員会事務局、各学校、地域関係者との連携による、通学路の危険箇所の点検及び防犯体制を充実する取り組みを継続する。</p> <p>各学校での交通安全教育、防犯教育活動を継続する。</p> <p>学校施設長寿命化計画に基づき、継続的な改修、維持補修を実施するとともに、令和4年度改訂となる湧別町小・中学校適正配置計画において学校施設の規模・配置計画等の方針に合わせた施設整備を検討する。</p>				

No.	4	事業名	学校運営事業（豊かな心と健やかな体の育成）	担当課	教育総務課
執行方針	<p>未来を担う子どもたちが互いを尊重し、ともに支え合いながら社会の一員として成長していくためには、心身の健やかな発達を支えていくことが重要です。</p> <p>とりわけ、道徳教育については、道徳が特別の教科として位置付けられたことをふまえ、規範意識や倫理観、命の大切さや思いやりの心などを育むとともに、体験活動を通して豊かな人間性や社会性、やさしさと思いやりの心を育ててまいります。</p> <p>また、いじめの問題につきましては、人として絶対に許されない行為であることを指導するとともに、未然防止、早期発見、早期解消を図るため、アンケート調査などによる実態把握と日常的な指導とあわせて、関係機関とも連携しながら対応してまいります。</p> <p>健やかな体の育成につきましては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査などから、成果と課題を分析し、望ましい運動習慣を定着させるための取り組みを推進してまいります。</p> <p>フッ化物洗口事業は、平成30年度から全ての学校で実施しておりますので、引き続き本年度も取り組んでまいります。</p> <p>「オール湧別」の部活動については、少子化による生徒数の減少により、学校単位での部活動運営が困難な状況が生じていることから、生徒が他校の運動部活動に参加する「オール湧別方式」（学校間連携方式）を導入して、運動部活動の環境整備を図ってまいります。</p> <p>この方式は、単一の学校では特定競技の運動部を設けることができない場合の生徒が、他校に設置された運動部の活動に参加できる「合同部活動」を可能とするものであります。尚、文化部活動についても、生徒の文化活動の機会が損なわれることのないよう、この方式の導入を検討してまいります。</p>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校の教育課程を通じた道徳教育の推進 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各学校における道徳教育の推進</li> <li>(2) 各教科・特別活動・総合的な学習等を通じた道徳教育の指導</li> </ol> </li> <li>2 各学校で策定された学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ等の問題行動の未然防止、早期発見、早期解消</li> <li>3 教育アドバイザーによる指導助言や相談支援体制の強化・充実</li> </ol>				
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校の教育課程を通じた道徳教育の推進 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 道徳の時間において、発達段階に応じた基本的な生活習慣、互いに協力し合う態度や集団における役割と責任等について指導した。</li> <li>(2) 保護者や地域住民の協力により、特別活動等の指導において道徳性を養った。</li> </ol> </li> <li>2 各学校で策定された学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ等の問題行動の未然防止、早期発見、早期解消。 各学校において定期的にアンケート調査等を実施し、いじめの把握に努め、早期発見、早期解消が図られた。</li> <li>3 教育アドバイザーによる指導助言や相談支援体制の強化・充実 教育アドバイザーによる学校現場への指導助言や児童生徒、保護者との相談支援体制の強化・充実が図られた。</li> </ol>				
課題	<p>道徳教育は、児童生徒が人間としての在り方を自覚し、人生をより良く生きるために、その基盤となる道徳性を育成するものであることから、教育活動全体を通じた指導を継続する必要がある。</p> <p>いじめは、人として絶対に許されないという認識のもと、児童生徒がいじめ等の</p>				

課題	問題行動を行わないよう継続した取り組みが必要である。 スマートフォン、携帯電話、パソコン・ゲーム機等を利用したインターネットによるいじめが全国的な問題となっているため、学校における児童生徒の利用実態を把握するとともに、インターネット利用の指導や、保護者への啓発を継続する必要がある。
改善方策	特別の教科「道徳」への移行にあたり各学校における道徳教育を充実させる取り組みを継続する。 いじめは人として絶対に許されない人権侵害であることを認識し、児童生徒が主体的にいじめについて考え、行動することができるよう指導を継続する。 いじめ等の問題行動の未然防止、早期発見、早期解消を図るため、いじめアンケート調査等による取り組みを継続する。 児童生徒によるインターネットの利用について指導するとともに、教職員や保護者に対し研修機会の充実を図る。

No.	5	事業名	学校運営事業（特別支援教育の推進）	担当課	教育総務課
-----	---	-----	-------------------	-----	-------

執行方針	特別な教育的支援を必要とする児童生徒一人ひとりの能力、特性に応じた個別の指導計画と教育支援計画を整備し、教育のみならず、医療、福祉、保健等を含めた関係機関が連携を図り、計画的・組織的な教育活動を推進してまいります。 また、通常学級に在籍し特別な支援を必要とする児童の学習や学校生活を支援する特別支援教育支援員については、担任と連携しながら個々の児童に応じた支援体制の充実を図ってまいります。 さらに、湧別小学校では平成30年度より、通常学級に在籍しながら、一定の時間、別の教室へ行き個別指導や少人数指導を行う通級指導教室を実施していますが、今年度は湧別小学校に特別支援教育のセンター的機能を持たせ、湧別小学校以外の学校に出向き指導を行い、特別支援教育の質の向上を図ってまいります。
事業内容	1 特別支援学級の設置 2 特別支援教育支援員の配置 3 校種間、幼稚園及び保育所と連携した推進体制の充実 4 発達障がい支援成果普及事業の活用
事業成果	1 特別支援学級の設置 関係機関と連携しながら就学相談や就学指導を実施し、教育支援委員会の開催により支援が必要な児童生徒を適切に把握し、支援が必要な児童生徒が在籍する学校に特別支援学級を設置した。 2 特別支援教育支援員の配置 必要に応じて小学校3校に8人の特別支援教育支援員を配置し、支援が必要な児童に対し支援を行った。 3 校種間、幼稚園及び保育所と連携した推進体制の充実 (1) 各学校で支援委員会等を開催し、特別な支援が必要な児童生徒について把握するとともに、支援内容等を検討し、教職員の共通理解のもと、特別支援教育を推進した。 (2) 幼稚園・保育所・小学校による「幼・保・小交流会議」を開催し、就学前幼児及び就学直後の子どもたちのより良い成長、発達のために関係機関との連携を深めた。 (3) 就学時には、保育所及び幼稚園と就学する小学校間、小学校から就学する中学校間において就学する児童生徒に関する引継ぎを行い、校種間の連携による適切な支援を行った。



事業成果	<p>(4) 北海道教育委員会が実施する特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業について5校の小・中・義務教育学校が活用し、各学校の特別支援教育コーディネーターや担任教員等が北海道立特別支援学校教員の助言等により、支援が必要な児童生徒に対する指導及び支援の充実が図られた。</p> <p>4 発達障がい支援成果普及事業の活用</p> <p>北海道教育委員会事業により、推進校である上湧別小学校、湧別小学校、芭露学園、湧別中学校が作成した成果報告書等を活用し、通常の学級における発達障がいのある子どもへの指導や支援に関する基礎的な知識や技能の習得が図られた。</p>
課題	<p>支援が必要な児童を小学校就学前に把握し、児童の状況に対応した早期の支援を行うため、関係機関が連携して適切な就学指導を行う必要がある。</p> <p>支援が必要な児童生徒に対し、特別支援学級への在籍や特別支援教育支援員を配置するほか、保護者への教育相談を充実する取り組みを継続する必要がある。</p> <p>関係機関との連携による支援体制の整備に努め、支援が必要な児童生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援が必要である。</p>
改善方策	<p>関係機関と連携し、支援が必要な児童生徒の早期把握に努めるとともに、適切な就学指導や特別支援教育支援員の配置を継続する。</p> <p>学校と教育委員会事務局との情報共有、保護者への教育相談の充実に努める。</p> <p>校種間、幼稚園及び保育所と連携した推進体制の充実に努める。</p> <p>発達障がい支援成果普及事業における成果報告書等を活用した校内研修を実施する。</p>

No.	6	事業名	学校運営事業（就学支援の充実）	担当課	教育総務課
執行方針	<p>児童生徒の就学に関わり、経済的理由によって、就学が困難な家庭における教育費の負担軽減を図るため、就学援助制度を適正に運用し、公平で的確な支援に努めてまいります。</p> <p>尚、平成30年度から開始しました入学準備金の入学前支給について今年も継続してまいります。</p> <p>また、教育の機会均等と教育の振興を図るための制度であります湧別町奨学金の貸付につきましては、一般に学校卒業後の数年は収入が少なく経済的に自立するには厳しい環境にあることから、償還期間を現行の6年から11年に延長して毎年の償還額を低くすることで、奨学生の安定した社会生活を支援いたします。</p>				
事業内容	<p>就学援助対象世帯（新入学児童・生徒がいる世帯）に対する入学準備金の就学前支給</p>				
事業成果	<p>7世帯（対象児童3名、生徒4名）に対して、小・中学校入学前の3月に入学準備金の支給を行い、対象世帯における教育費の負担軽減を図ることができた。</p>				
課題	<p>経済的理由によって就学が困難な家庭における教育費の負担軽減を図ることが目的であることから、就学を予定している世帯及び小中学生のいる世帯に対し、就学援助に関する制度について周知し理解を広める必要がある。</p>				

改善 方 策	<p>広報紙等を利用して制度を周知する他、翌年度の新入学児童を対象とする就学時健康診断を実施する際、保護者に対し制度の概要を記載したチラシを配布することで、制度の概要を周知し理解を広めることにより、制度の利用促進を図る。</p>
--------------	--

No.	7	事業名	中高一貫教育推進事業	担当課	教育総務課
-----	---	-----	------------	-----	-------

執行 方 針	<p>中高一貫教育は、生徒たちが、中学校・義務教育学校後期課程と高等学校の6年間を一貫した教育課程のもとで学ぶことにより、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人ひとりの個性をより重視した教育の実現を目指すものであります。</p> <p>中高一貫教育の理念であります「地域の子どもは地域で育てる」のもとに、中学校2校と義務教育学校そして北海道湧別高等学校、さらには地域が一体となって、より一層の充実と発展を期すことができるよう支援してまいります。</p>
--------------	---

事業 内 容	<p>1 湧別町教育委員会、北海道湧別高等学校、上湧別中学校、湧別中学校、芭露学園による一貫教育の実施</p> <p>(1) 学習進路の連携</p> <p>(2) 地域学習の連携</p> <p>(3) 特別活動等における連携</p> <p>2 STCプログラムの実施</p> <p>3 中高一貫教育推進会議運営費の補助</p>
--------------	---

事業 成 果	<p>1 湧別町教育委員会、北海道湧別高等学校、上湧別中学校、湧別中学校、芭露学園による一貫教育の実施</p> <p>(1) 学習進路の連携</p> <p>中高6年間を見越した基礎学力の育成及び進学・就学指導、ティームティーチングや少人数指導で個々に対応した教育、各教科における中学校教諭・高校教諭による乗り入れ授業・授業交流・つなぎ学習を実施することにより、学力向上を推進した。</p> <p>連携入試は、新型コロナウイルス感染症の影響により急遽中止とした。</p> <p>(2) 地域学習の連携</p> <p>中・高での共通テーマに基づく地域巡検、職場体験の実施、地域の有識者の招聘による体験学習・講座、中学生に対して高校生が実体験などをスピーチすることにより、生徒の地域の歴史・諸課題・職業に関する知識を高め、キャリア教育を推進した。</p> <p>(3) 特別活動等における連携</p> <p>部活動・生徒会行事等において中・高の校種間・他校間での、異年齢の連携による教育活動を推進した。</p> <p>2 STCプログラムの実施 学年に応じて、自己の生き方・在り方を見つめ、6年間を通しての系統的なキャリア教育を行った。</p> <p>3 中高一貫教育推進会議運営費の補助</p> <p>中・高の連携による教育活動に要する費用を助成し、資格の取得、講習会・講座の開催を推進した。</p>
--------------	--

課 題	<p>連携型入試で湧別高校に入学する生徒に対して、本年度は基礎学力テストを実施することができなかったが、今後は実施していく必要がある。</p> <p>中学・高校での生徒の学力の現状を把握し、中高連携による学力向上に向けた取組を推進する必要がある。</p> <p>進学を意識し基礎基本の定着を図るためのつなぎ学習の実施を継続する必要がある。</p>
--------	---

課題	<p>乗り入れ授業及び授業交流等を通じて中・高各教科担当教諭の連携を深化し、多様な教科間交流手法の研究を継続する必要がある。</p> <p>部活動・生徒会活動において、より柔軟な交流のための理解を深める必要がある。町民に向けての中高一貫教育の内容や成果等の情報発信を継続する必要がある。</p> <p>人事異動等による担当者の入れ替わりが多いため、事業内容を記録し、絶えず内容の向上に努める必要がある。</p>
改善方策	<p>連携型入試で湧別高校に入学する生徒に対しての基礎学力テストを実施する。</p> <p>学力検査、乗り入れ授業などを活用し、つなぎ学習などの内容を改善し、学力向上の方策を検討する。</p> <p>事務局会議、各部会の開催を継続し、中高の連携を推進する。</p> <p>反省事項を検討し、次年度に活かせるよう引き継ぐ。人事異動による担当者の変更により左右されないような引き継ぎに努める。</p> <p>中高一貫教育広報紙の全戸配布を継続するほか、STCやつなぎ学習を授業公開や参観日と関連させるなど、地域への中高一貫教育の取り組みを周知する方策を引き続き検討する。</p> <p>事務局会議及び各部会内容を記録し、計画、実行、評価、改善のサイクルにより、中高一貫教育の取組の進化を推進する。</p>

No.	8	事業名	北海道湧別高等学校存続対策事業	担当課	教育総務課
-----	---	-----	-----------------	-----	-------

執行方針	<p>湧別高校は、本町の人づくりや地域活性化の視点からも重要であり、湧別高校の2間口維持は不可欠であり、重要な課題であると考えております。</p> <p>近年、地元生徒数の減少や進路志向の多様化により、湧別高校への志願者が減少する中、湧別高校の魅力ある学校づくりにつながる取り組みが必要であります。</p> <p>本年度も「北海道湧別高等学校の存続対策事業」として、引き続き各種助成事業による支援を行うとともに、遠方から通学する生徒の経済的負担をさらに軽減するため、新年度入学生から3万円を限度に通学費の全額補助を行なって、生徒数の確保に繋げてまいります。あわせて、少人数ながらも活躍している部活動が、各種大会に参加するのに必要な貸切バス等の費用についても新たに支援してまいります。</p> <p>また、生徒との意見交換を行って、さらなる湧別高校の魅力向上となる支援策について検討を重ね、入学者の確保に繋がるよう支援してまいりたいと考えております。</p>
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書等購入費補助事業</li> <li>2 学力向上推進費補助事業</li> <li>3 海外交流派遣費用補助事業</li> <li>4 部活動用具等購入費補助事業</li> <li>5 部活動クリニック補助事業</li> <li>6 部活動合宿遠征費補助事業</li> <li>7 学校体育文化活動費補助事業</li> <li>8 通学費補助事業</li> <li>9 生徒会等事業補助</li> <li>10 部活動交通費</li> </ol>
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書等購入費補助事業 在籍する生徒の保護者に対し、学校が指定する教科書及び副教材の購入費用を補助した（生徒122名）。</li> <li>2 学力向上推進費補助事業 父母と教師の会が、在籍する生徒の学力向上のために学校が指定する模擬試</li> </ol>

事業成果	<p>験受験費用及び学力向上用教材購入助成に要した費用を補助した（模擬試験受験者延べ439名、学力向上教材：スタディサプリ33部・進路マップ43部）。</p> <p>3 海外交流派遣費用補助事業 在籍する生徒が参加する海外交流派遣事業の費用を補助した（ニュージーランド相互交流派遣2名）</p> <p>4 部活動用具等購入費補助事業 体育文化後援会が、部活動の活動環境を整備するために用具等の購入費を助成した費用を補助した（用具等を購入した部活動：バレーボール部、ラグビー部、陸上部、吹奏楽局）。</p> <p>5 部活動クリニック費補助事業 体育文化後援会が、部活動の資質向上のために部活動クリニック実施費を助成した費用を補助した（クリニックを実施した部活動：吹奏楽局）。</p> <p>6 部活動合宿遠征費補助事業 体育文化後援会が、部活動の資質向上のためにオホーツク管外の高等学校との対外試合等を行うための合宿遠征費を助成した費用を補助した（ラグビー部、バレーボール部）。</p> <p>7 学校体育文化活動費補助事業 体育文化後援会が、湧別高校を代表する団体及び個人が参加する全道的な規模以上で開催される競技会等の参加費を助成した費用を補助した（ラグビー部合同チーム男子全道・全道大会・全道選抜大会・全国選抜大会・国体、陸上部北海道選手権大会、国体選考会、北海道選手権大会）。</p> <p>8 通学費補助事業 営業バス又はJRを利用して片道4kmを超えて通学する生徒の保護者に対して、通学のために購入した定期券、回数券、ICカード購入費用を補助した（延べ生徒188名）。</p> <p>9 生徒会等事業補助 生徒会又はPTAが実施する湧別高校の魅力向上に繋がる活動に補助した（学校案内作成、湧虹祭模擬店チケット発行、PR用Tシャツ作成、生徒募集中用ポスター制作、イノベーションスクール参加（2回）、地域との協働による高等学校教育改革推進事業全国サミット）</p> <p>10 部活動交通費補助 体育文化後援会が、全道的な規模未満で開催される競技会等に参加する部活動の交通手段として貸切りバス等を利用する費用を助成した費用を補助した。（バレー部、吹奏楽局（2回）、ボランティア部）</p>
課題	<p>地域の高校の存続対策の推進を図るため、生徒の保護者の負担軽減及び湧別高校の魅力ある学校づくりに繋がる効果的な支援策を実施する必要がある。</p> <p>数多くの事業や補助、成果、または湧別高校の魅力を中学生及びその保護者や地域住民へ継続して周知することが必要である。</p>
改善方策	<p>在籍する生徒の意見を取り入れ、補助金の内容等について検証をする。効果的な補助事業の内容を検討し、支援策を決定のうえ実施する。</p> <p>町内外の中学生に対して、継続的に事業・補助内容の周知を図る。</p>

No.	9	事業名	国際理解教育事業	担当課	教育総務課
執行方針	<p>平成30年度より新しい学習指導要領への移行期間となり、小学校3・4年生への外国語活動が取り入れられ、5・6年生は外国語教科となることに伴い授業時数が増加したことから、外国語指導助手につきましては、カナダとニュージーランドから3名を雇用して、町内の小・中学校及び義務教育学校並びに湧別高校に派遣し、生きた英語を学ぶ授業のサポートをするとともに、町内における国際理解教育の推進に努めてまいります。</p> <p>また、友好都市であるニュージーランドのセルウィン町及びカナダのホワイトコート町への中学生・高校生の交換留学事業を継続して行い、相互交流事業につきましては、本年度ニュージーランドへの派遣を実施し交流を継続してまいります。</p>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 交換留学事業</li> <li>2 相互交流事業</li> <li>3 外国語指導助手招聘事業</li> <li>4 英会話教室</li> </ol>				
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 交換留学事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>ニュージーランドセルウィン町ダーフィールドハイスクールから3名を受け入れ、中学生3名を派遣した。受入者・派遣者は互いの家にホームステイすることにより、5か月に渡る長期交流が実現した。また、受入校である湧別高校及び上湧別中学校でも国際理解が深まった。</li> </ul> </li> <li>2 相互交流事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>派遣事業を実施し、ニュージーランドに中高生6名、引率者3名を派遣した。派遣期間中、湧別高校とオンラインでつなぎ、ダーフィールドハイスクールの日本語クラスの生徒と湧別高校生、湧別高校から派遣中の生徒たちが互いに交流することができた。事前・事後研修も含め、この派遣事業を通じて参加者の国際理解が深まった。</li> </ul> </li> <li>3 外国語指導助手招聘事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>自治体国際化協会を通じカナダから2名、友好都市を通じニュージーランドから1名の計3名の外国語指導助手を任用し、小・中・義務教育学校、湧別高校及び児童センターへ派遣した。各学校への派遣回数を増やし、外国語の授業等を通じ、児童生徒の国際理解が深まった。</li> </ul> </li> <li>4 英会話教室 <ul style="list-style-type: none"> <li>一般成人向け初心者及び中級者英会話教室を延べ36回、一般成人向けの英語でのクッキングクラスを2回開催し、町民が外国語や外国の文化に触れる機会を提供した。</li> </ul> </li> </ol>				
課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1・2 交換留学事業・相互交流事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>交換留学派遣事業の受け入れ家庭を確保する必要がある。</li> <li>留学や派遣事業の参加者や受け入れ家庭への国際理解を推進する効果は高いが、その成果や国際理解の必要性を町民に周知し続ける必要がある。</li> </ul> </li> <li>3 外国語指導助手招聘事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語指導助手の活用の仕方、学校教員との連携を深める研究を継続する必要がある。</li> </ul> </li> <li>4 英会話教室 <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の固定化、レベルのばらつきがある。また、人数も減少している。</li> <li>小学生の英会話事業は日程を調整し、より多くの児童に英会話や異文化体験ができる機会を提供する必要がある。今年度は、新型コロナウイルス感染症防止から開催することができなかった。</li> </ul> </li> </ol>				

改善 方 策	<p>交換留学事業・相互交流事業については、参加者の体験等を広報紙・町ホームページに掲載するほか、各学校へ派遣活動をまとめたポスターの配布、各学校での報告会の開催等を依頼するなど、広報を続ける。また、相互交流事業参加者の報告会を一般公開しているが、より多くの町民の方に派遣の様子を見てもらえるよう周知を工夫する。英会話教室参加者を対象に事業の周知、参加推奨を行う。</p> <p>交換留学事業・相互交流事業の受け入れ家庭については、募集のポスターを公共施設に掲示したり、派遣事業参加者に協力を依頼するなどして確保に努める。また、生徒がいない家庭でも受け入れをしてもらえるように範囲を拡大していく。</p> <p>外国語指導助手招聘事業については、学校・関係機関と連携して、外国語指導助手の勤務状況の評価、北海道教育委員会が実施している研修への日本人教諭の参加推進、学校での授業前に打ち合わせを綿密に行うためのスケジュール確保に努める。</p> <p>英会話教室は、参加人数が減少してきていることから1クラスとし、その中でも個々のレベルにあった指導ができるように工夫する。日常生活に沿う内容で楽しみながら英語や外国の文化に触れる機会を増やすよう努力する。小学生の英会話イベントは日程調整を工夫し、引き続き開催するように努める。湧別高校生の参加も推奨していく。</p>
--------------	--

No.	10	事業名	学校運営協議会事業	担当課	教育総務課
執行 方 針	<p>湧別町立小・中学校適正配置計画を基本に、次代を担う子どもたちが、明るく、たくましく、心豊かに育つための教育環境づくりを目指し、「地域とともにある学校づくり」を進めるため、現在、町立小・中学校及び義務教育学校5校を指定校として学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置しており、本年、残す2校に協議会を設置し、地域住民が学校の諸活動により一層活発に参画するための支援の充実を図ってまいります。なお、町内すべての学校に協議会が設置されることから、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組みを構築し、横断的ネットワークによる連携・情報共有に努めてまいります。</p>				
事業 内 容	<p>1 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置 2 義務教育学校視察</p>				
事業 成 果	<p>1 町内全ての学校に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置し、保護者や地域住民などが学校運営の基本方針の承認、教育活動などについて意見を述べるなど各学校の活動に参画することができた。</p> <p>学校運営協議会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開盛小学校 H29. 8. 1 設置 協議会委員 7名</li> <li>・富美小学校 H29. 8. 1 設置 協議会委員 7名</li> <li>・湧別小学校・湧別中学校 H30. 4. 1 設置 協議会委員 13名</li> <li>・芭露学園 H30. 5. 1 設置 協議会委員 10名</li> <li>・上湧別中学校 H30. 10. 1 設置 協議会委員 9名</li> <li>・上湧別小学校 R元. 5. 1 設置 協議会委員 10名</li> <li>・中湧別小学校 R元. 5. 1 設置 協議会委員 8名</li> </ul> <p>2 町内全ての学校に学校運営協議会が設置されたことから、合同で義務教育学校の視察を行い、今後の学校教育の在り方について学ぶことができた。</p>				

課題	<p>少子化による児童生徒数の減少が進む中、児童生徒にとって教育の機会均等の観点から十分な教育効果が得られ、また、公正性を保ちながら次代を担う児童生徒が常に良好な教育環境を確保していくための方向性を示す必要がある。</p> <p>学校は児童生徒の教育のために設置されている施設であり、地域の声を学校運営に生かしながら、幅広い地域住民の参画を得て、学校と地域が一体となって特色ある学校づくりを進めていく必要がある。</p> <p>横断的な連携・情報共有の仕組みを整える必要がある。</p>
改善方策	<p>地域における学校の在り方等について、次代を担う児童生徒により良い教育条件、教育環境を提供するため、開かれた学校から更に一步踏み出し、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体になって児童生徒を育む「地域とともにある学校」へと転換していくことを目指して、取組を推進する。</p>

No.	1 1	事業名	学校給食センター運営事業	担当課	教育総務課
-----	-----	-----	--------------	-----	-------

執行方針	<p>学校給食につきましては、学校給食衛生管理基準に基づき、施設内における衛生管理の徹底に努めるとともに、安心して安全な地場産や北海道の食材を優先的に購入し、児童生徒の心身の成長と健康を支える上で必要な、バランスのとれた給食づくりを行ってまいります。</p> <p>また、栄養教諭の指導により、学校給食を生きた教材として活用し食の大切さや、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう努めてまいります。</p> <p>なお、食物アレルギー等を有する児童生徒への対応等につきましては、家庭及び学校と連携を図り、代替食等の提供が適切に行われるよう努めてまいります。</p> <p>今年度の給食費につきましては、昨年同様1食当たり小学校247円、中学校285円で提供してまいります。</p> <p>施設につきましては計画的に整備しており、本年度から4年計画で厨房機器の更新を実施してまいります。</p>
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 おいしくて栄養バランスのとれた給食作りの実施</li> <li>2 地元産食材の活用</li> <li>3 栄養教諭による食に関する指導</li> <li>4 食物アレルギー等を有する児童生徒への代替食等の対応</li> </ol>
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 おいしくて栄養バランスのとれた給食作りの実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食センター運営委員会、各学校の給食担当者会議等で給食に対する意見を献立等の作成に活用した。</li> <li>残食調査を実施し、結果に基づき適切な分量の給食提供に活用した。</li> </ul> </li> <li>2 地元産食材の活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>地元産食材の購入に努め、道産米を使用した米飯、道産小麦を原料にしたパン、地場産品の牛肉、鹿肉を献立に取り入れた。</li> <li>地元生産者から寄贈された食材（ホタテ貝柱、玉葱）を活用した給食を提供した。</li> </ul> </li> <li>3 栄養教諭による食に関する指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>栄養教諭が小・中学校を訪問し、給食時間やバイキング給食の機会に指導を行うほか、家庭科や道徳の時間を活用し、食に関する教育を実施した。</li> </ul> </li> <li>4 食物アレルギー等を有する児童生徒への代替食等の対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>食物アレルギーを持つ児童生徒に対し、代替食の提供又は代替食の提供ができない場合は給食費の減額による対応を行った。</li> </ul> </li> </ol>

課題	<p>調理場の衛生管理の徹底及び、安全安心な食材を確保する取り組みを継続する必要がある。</p> <p>給食に活用できる地元食材を確保する取り組みを継続する必要がある。</p> <p>残食調査等を通じて、適正な分量の給食を提供する取り組みを継続する必要がある。</p> <p>学校給食を教材とした、栄養教諭による食に関する指導を継続する必要がある。</p> <p>アレルギーを持つ児童生徒の状況をアンケート等により把握し、適切な代替食を継続して提供する必要がある。</p> <p>調理器具を始めとする給食センター施設の点検等を通じ計画的な更新を行う必要がある。</p>
改善方策	<p>調理委託業者への指導、賄い材料納入業者の選定等を通じて、安心安全な食材確保に努める。</p> <p>施設内の衛生管理を徹底し、安全な給食の提供に努める。</p> <p>学校給食センター運営委員会等の意見を取り入れた献立の改善に努める。</p> <p>地元産食材の購入を継続し、献立への活用に努める。</p> <p>残食調査等を通じて、適正な分量の給食を提供する取り組みを継続する。</p> <p>栄養教諭による食に関する教育の研究推進に努める。</p> <p>食物アレルギー等を持つ児童生徒の状況についての適切な把握を継続する。</p> <p>給食センター施設の点検を継続し、計画的な更新を継続する。</p>



(2) 社会教育

No.	1	事業名	社会教育振興事業（家庭教育）	担当課	社会教育課
執行方針	<p>家庭教育はすべての教育の原点であります。</p> <p>子どもたちの健やかな成長を育む基礎となるものでありますが、近年、核家族化や地域でのつながりの希薄化等を背景とした家庭教育における様々な課題が指摘されています。</p> <p>子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立してしまうことのないよう、新たに教育、子育て、保健福祉担当者による「家庭教育」に係る庁舎内組織を発足させ、情報の提供や共有、研修会の開催など、家庭での教育に対する横断的な支援体制を整備してまいります。</p> <p>また、民間団体が行っている子どもの成長を応援する自主的な活動につきましても支援に努め、地域全体で子どもを守り育てていく環境の整備に努めてまいります。</p>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 家庭教育研修会の開催</li> <li>2 健康子ども課との事業協力</li> <li>3 家庭教育相談の実施</li> <li>4 生涯学習振興奨励事業補助金の活用</li> </ol>				
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 家庭教育研修会の開催 講演題 『ヨガで身体と心を整え、顔ヨガで幸せ笑顔を手に入れる！！』 講師 元谷 恵美氏（ヨガインストラクター） 内容 ヨガ教室という、子どもを持つ親にとって共通の話題を提供し、これをきっかけにつながることで、家庭教育の重要性についての啓発を実施。25名参加。</li> <li>2 教育アドバイザー、子育て支援センター職員等による連絡会議を行い、家庭教育支援と子育て支援の連携強化が図られた。</li> <li>3 家庭教育相談の実施 教育アドバイザーにより随時教育相談に対応した。</li> <li>4 生涯学習振興奨励費補助金の活用により、母親サークル等による活動を支援した。</li> </ol>				
課題	<p>地域としてゆるやかに支えあう家庭教育支援が、家庭の教育力を向上させ、引きこもりや不登校、社会格差、虐待など複雑かつ深刻化する問題を未然に防ぐ効果があることを広く啓発する必要がある。</p> <p>集団で活動する機会が減少し、孤立しがちな子育て世代を支援するため、ボランティアを育成する必要がある。</p> <p>一方で現代社会において、地域による教育力向上には限界もあるため、行政機関の連携により課題の把握と適切な支援を図る必要がある。</p>				
改善方策	<p>保護者を取り巻く環境の変化への理解や家庭教育支援の必要性の理解を深める研修事業を充実する。</p> <p>家庭教育への意識を高める学習活動を支援する。</p> <p>母親サークル等の育成と支援を充実する。</p> <p>子育て支援センターや図書館など関係機関との連絡体制をつくり、連携を図る。</p>				

No.	2	事業名	社会教育振興事業（少年教育）	担当課	社会教育課
執行方針	<p>少年教育についてであります。次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに成長することは、地域社会にとって変わらぬ願いであります。</p> <p>家庭や学校、地域、青少年指導センターをはじめとする関係団体との連携により、人間性を養う学習機会の提供に努めるとともに、次代を担う中高生リーダーや成人指導者の養成にも努めてまいります。</p>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各種体験活動の実施</li> <li>2 地域子ども会・青少年指導センターへの活動支援</li> <li>3 小学生・中学生リーダー養成や成人指導者の活用</li> </ol>				
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各種体験活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>各種団体との連携により体験事業を実施し、集団生活体験の場を提供した。</li> <li>(1) 児童宿泊研修会 全町の小学5年生 61名参加</li> <li>(2) 子ども会リーダー研修会（夏季・冬季）冬季は中止 小学生18名、中高生リーダー18名、成人指導者4名参加</li> <li>(3) 湧別町・新篠津村友好都市交流事業（於：湧別町） 湧別町20名、新篠津村8名の児童及びリーダー11名 昼食ボランティア13名が参加</li> <li>(4) 新春交歓カルタ大会 34名参加 百人一首教室 44名参加 成人指導者14名による運営</li> </ul> </li> <li>2 地域子ども会・青少年指導センターへの活動支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域青少年指導センター（地域子ども会連合組織）の事務局運営の支援を通じ単位子ども会の活性化が図られた。</li> </ul> </li> <li>3 小学生・中学生リーダー養成や成人指導者の活用青年団体の育成・援助の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>1の各種体験活動及び青少年指導センター主催事業を通じて、小学生リーダー研修、中学生リーダー研修事業を実施した。</li> </ul> </li> </ol>				
課題	<p>自然体験や対人での体を使った遊びの機会が減少しているため、体験活動の提供やコミュニケーション能力の養成が必要。</p> <p>地域に愛着と誇りを持ったリーダー・指導者を小学生から高校生・青年まで一貫して育成する必要がある。</p>				
改善方針	<p>地域の特性を生かした体験学習活動の機会を提供し、豊かな人間性の養成を図る。</p> <p>異世代や異年齢との交流機会の拡充により、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域教育力の向上を図る。</p> <p>小学生や中学生のリーダー養成及び、地域の成人指導者の活用を図る。</p> <p>小学生～中学生～高校生～青年が一貫して活動できるような事業展開を図る。</p> <p>児童センターをはじめ関係機関との連携を図る。</p>				

No.	3	事業名	社会教育振興事業（青年教育）	担当課	社会教育課
執行方針	<p>青年教育についてであります。個々の価値観が変化し、団体離れが進んでいると言われていたなか、本町の青年団体協議会につきましては、各種イベントへの参加協力や、昨年、友好都市提携15周年を機に交流が始まった新篠津村青年団との交流を今年も継続するなど、地域に根ざした活動を地道に展開しております。今後も自主性を尊重しながら活動の支援に努めてまいります。</p>				

事業内容	1 青年団体の育成・援助 2 成人式の実施
事業成果	1 青年団体の育成・援助 青年会館の利用を含めた青年団体協議会の活動支援を行うことにより、まちづくりに関わる意識が高まり、町内イベントへの組織的な協力活動が行われた。また、団体主催事業として小学生を対象に雪中ドッチボール大会が開催された。 2 成人式の実施 成人者79名出席。軽食提供ボランティア24名。式典および地元食材による軽食を提供する交流会を通じ、新成人の社会人としての意識高揚や地元愛の醸成が図られた。
課題	青年同士の仲間づくりや集う場の提供が必要。 青年が気軽に意見を言える機会を設け、活動に積極的に関わる人材の発掘・育成の必要がある。
改善方策	各種研修会等の情報を提供し参加を奨励する。 成人式を開催し、新成人の社会人としての意識の高揚を図る。 高校生の社会参加活動を奨励・支援する。 青年団体協議会が行う自主活動を応援し、広く周知に努める。 団体リーダーの養成と活用を図る。 地域活動への参加に向けて意見交換の機会をつくる。

No.	4	事業名	社会教育振興事業（成人教育）	担当課	社会教育課
執行方針	成人教育についてであります。成人期の多岐にわたるニーズや課題に応じた学習機会や情報の提供に努めるほか、町民の貴重な学習機会として民間団体により開催されている「町民大学」や「ふるさと講座」につきましても、活動の輪がさらに広まるよう、支援に努めるとともに、町民が企画開催する自主事業については、生涯学習振興奨励事業補助による支援を行い、学習成果が地域等に還元できる環境づくりに努めてまいります。				
事業内容	1 湧別町民大学の開催 2 町域住民が主体的に組織的に学習活動を継続するための支援 3 P T A団体への助成 4 生涯学習振興奨励事業補助金の活用				
事業成果	1 湧別町民大学の開催 町民有志で構成する実行委員会により、各ジャンルの講師を招き、町民に対し今日的課題や地域課題等の解決に向けた学習機会を提供した。 合併10周年記念講演を含む5回開催、延べ972名の参加 2 町域住民が主体的に組織的に学習活動を継続するための支援 「ふるさとから学ぶ会」との共催により郷土学講座を開催。 第8回我がまち湧別町のお宝をたずねる旅の開催。参加64名（運営含む） 第9回ふるさと講座「酪農」の開催。参加60名（運営含む） 3 P T A団体への助成 補助により、研修会に参加するなど学習活動が行われた。 4 生涯学習振興奨励事業補助の活用 自主事業グループ2団体に対し補助を行った。				

課題	<p>湧別町の歴史、産業、自然等を学ぶ機会を提供する必要がある。</p> <p>時間的余裕のない成人期のニーズや、退職後の世代の多様なニーズに応えられるよう、情報提供も含め参加し活躍する場を創出する必要がある。</p> <p>世代間交流、異業種間交流を推進し、まちづくりの人材育成を図るため、企画等、町の他部局との情報共有も含めた連携強化が必要。</p> <p>学習を支援するコーディネーターを育成する必要がある。</p>
改善方策	<p>「ふるさと講座」は、町域単位での郷土学の機会提供のみならず、小さな地域における指導者の養成と活動の広がりをもつ場として支援する。</p> <p>「町民大学」は、来場者数を目標とするだけでなく、参加者（団体）や実行委員と講師とのつながりをより深めるなど、人材育成の側面も意識した事業展開や職域を巻き込んだ事業展開を奨励する。</p> <p>幅広い学習ニーズに応える学習機会の提供と学習意欲を喚起する。</p> <p>お互いの仕事や暮らしを知り、地域を知ることにつながる学習活動を支援する。</p> <p>自主的に企画し実践するサークルなどの活動支援を充実する。</p> <p>気楽に参加し、進んで活動できるよう情報の提供に努める。</p>

No.	5	事業名	社会教育振興事業（高齢者教育）	担当課	社会教育課
執行方針	<p>高齢者教育についてであります。昨年度統合された「チューリップ生きがい大学」は学生である高齢者のみなさんの自主的な運営により、学習・交流の場として生き生きと活動されております。</p> <p>今後も加入者増に努め、高齢者の知識や経験が広く地域に活かされ、生きがいのある充実した生活につなげていただけるよう活動内容の充実に努めてまいります。</p>				
事業内容	<p>1 チューリップ生きがい大学の開設</p> <p>2 世代間交流事業の実施</p>				
事業成果	<p>1 チューリップ生きがい大学の開設 172名入級 集会等10回開催</p> <p>寿学級と生きがい大学が統合して2年目を迎えた。講演会、レクリエーション等の開催および学生の主体的な取り組みとしてのクラブ活動への支援により、高齢者の学習機会を継続的に提供し、活力の維持に努めた。</p> <p>2 世代間交流事業の実施</p> <p>小・中学校の総合的な学習をチューリップ生きがい大学生が支援し、昔の遊びやクラブ活動体験を通じた世代間交流の機会を提供した。</p>				
課題	<p>「高齢者学級」では、主体的な取り組みに対し継続支援が必要。</p> <p>高齢者が持つ知識や経験、技能を地域や次世代に伝える機会を提供し、生きがいを持てるようにする必要がある。</p> <p>家にこもりがちな高齢者に、地域の身近な情報を提供するとともに、より参加しやすい少人数でのグループ活動などの場を創出する必要がある。</p>				
改善方策	<p>高齢者の興味関心を呼び起こす事業を創設する。</p> <p>高齢者学級の参加者による自主活動の促進と充実を図る。</p> <p>次の世代に伝承する異世代間交流事業を充実する。</p> <p>知識や知恵を持つ高齢者を把握し、活かすようコーディネートで充実する。</p> <p>少人数でも気楽に参加しやすい環境づくりに努める。</p> <p>高齢者学級と他団体との連携を図る。</p>				

No.	6	事業名	スポーツ振興事業	担当課	社会教育課
執行方針	<p>スポーツは、健康増進・体力向上のほか、コミュニティの形成においても重要な役割を担っております。</p> <p>本年度においても、体育協会をはじめスポーツ少年団や自治会等と連携し、年齢層に応じた各種大会や教室を開催し、生涯スポーツの推進に努めるとともに、町民のスポーツ活動を牽引する指導者の育成や養成に努めてまいります。</p> <p>また、本年度も町民の健康づくりや体力向上を図るため湧別総合体育館のトレーニング室に、機器を更に導入するとともに、今年度からは利用者の多様なニーズに沿った効果的な指導が行えるよう、トレーニングの知識を有する職員を配置し、町民の皆さんの健康づくりに努めてまいります。</p> <p>また、「サロマ湖100kmウルトラマラソン」や「上野カップ少年柔道大会」の開催、合宿誘致事業につきましても、交流人口の増加や町民への実技指導、交流などが図られており、引続き支援をおこなうなど、スポーツの普及と振興に努めてまいります。</p>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 大会の開催</li> <li>2 スポーツ教室・講習会の開催</li> <li>3 スポーツ推進委員事業の開催</li> <li>4 スポーツ団体活動の育成援助</li> <li>5 スポーツ施設の整備充実</li> </ol>				
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 大会の開催 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 自治会対抗町民300歳バレーボール大会を開催し、町民のスポーツ参加機会及び参加者間の交流機会を提供した。</li> <li>(2) サロマ湖100kmウルトラマラソンを開催し、町民をはじめ、中学生・高校生を含めたボランティアや関係者の支援・協力により、町民のマラソンへの関心やボランティア活動への意識の高揚が図られた。</li> <li>(3) 湧別町出身のふるさと応援大使である柔道オリンピックメダリストの上野姉妹の冠を掲げた小・中学生の「湧別町少年柔道大会～上野カップ2019～」を合併10周年記念事業として開催し、全道各地より集まることにより、町の活性化や交流人口の増加が図られた。</li> <li>(4) 合併10周年を記念して、友好都市を提携している新篠津村と湧別町との少年野球チームの交流試合を開催し、児童間の親睦と交流が図られた。</li> </ol> </li> <li>2 スポーツ教室・講習会の開催 <p>町民体力テスト、クロスカントリースキー教室等のスポーツ教室・講習会などを実施し、町民がスポーツに親しむ機会の提供と技術向上に資することができた。</p> </li> <li>3 スポーツ推進委員事業の開催 <p>スポーツ推進委員が研修を通じて資質向上を図り、小学校1年生～4年生を対象に毎月1回開催している「チャレンジスポーツスクール」において、様々なスポーツを体験する機会を提供した。</p> </li> <li>4 スポーツ団体活動の育成援助 <p>スポーツ少年団、体育協会への運営費助成を行うことにより、町内における自主的なスポーツ活動の推進を支援した。</p> <p>体育協会が主催となって実施した、合併10周年記念事業「五鹿山マラソン2019」では、町内外より約160名の参加があり、町民の体力増進や健康づくりを高めるきっかけづくりと地域の更なる一体感の醸成を図ることができた。</p> </li> </ol>				

事業成果	<p>団体や個人に対して全道・全国大会への遠征の経費の一部を助成することにより、町内のスポーツの振興を推進した。</p> <p>合宿誘致事業では、実業団強豪チーム「三井住友海上女子柔道部合宿」が行われ、合宿期間中、公開練習の他に道内道場・少年団及び町内の小学生を対象とした柔道教室を開催することにより、一流選手とのふれあいや町民の交流が図られた。</p> <p>東京経済大学合気道部や東京都の鷹の台合気道同友会の合宿では、公開練習や町内の小学生を対象とした合気道体験教室、演武会を実施したことにより、町民の合気道への意識の高揚と交流が図られた。</p> <p>また、上野和香子氏が主宰する北柔会とその他の関連道場の柔道合同合宿を実施することにより、子どもたちの親睦と地域間交流が図られた。</p> <p>5 スポーツ施設の整備充実</p> <p>町民のニーズを踏まえ利用しやすい管理運営や定期的な保守点検・修繕等を通じて適正な維持管理を行った。</p> <p>令和元年度より運動指導職員を採用し、湧別総合体育館トレーニング室において、月2回の運動教室やトレーニング室の利用者に対し、運動指導・相談を実施し、町民の健康や体力づくりの増進に努めた。また、新たにトレッドミル（ランニングマシン）を1台配置し、トレーニング機器の整備を行ったところ、利用者の増加が図られた。</p>
課題	<p>スポーツニーズが多様化している一方、少子高齢化によるスポーツ団体の会員不足や子ども達の体力の低下、スポーツ離れ、指導者不足などを解消する方策を検討する必要がある。</p> <p>各年齢に応じたスポーツ習慣が形成されるよう、だれもがいつでもスポーツに親しむ機会を提供する必要がある。</p> <p>施設の管理運営、指導者の発掘・養成や体育協会・スポーツ少年団などの関係団体の支援体制の充実に努める必要がある。</p>
改善方策	<p>ライフステージに応じた各種教室、講習会、大会などスポーツに親しむ機会を提供し、健康や体力づくりの増進と住民相互の交流の推進に努める。</p> <p>多種多様なスポーツニーズに対応するため、ニュースポーツの研究・普及に努める。</p> <p>体育協会やスポーツ少年団など関係団体の育成と自主的な活動支援に努める。</p> <p>「するスポーツ」に加え、「支えるスポーツ」として大会等の支援を行うボランティアの確保に努める。</p> <p>町民のスポーツ活動を推進する指導者の育成や養成を図り、指導体制の充実に努める。</p> <p>著名な外部講師等の招聘により、技術向上の習得に努める。</p> <p>スポーツ推進委員の連携強化を図り、町民のスポーツの推進や健康増進に努める。</p> <p>体育協会やスポーツ少年団、自治会、関係団体等の連携を図り、町民みんなで楽しむ生涯スポーツの推進に努める。</p> <p>町民のニーズを踏まえながら利用しやすいスポーツ施設の計画的な改修等と適正な管理運営、利用実態に即した開館を目指す。</p>

No.	7	事業名	芸術文化活動振興事業	担当課	社会教育課
執行方針		<p>優れた芸術文化は、町民一人ひとりの創造性をはぐくみ、より良い人生を築く糧となるものです。</p> <p>本年度においても優れた芸術文化に触れる機会を提供するため、文化連盟をはじめとする各種団体の活動や、町民有志団体による鑑賞機会の提供を支援し、町内の芸術文化の普及に努めてまいります。</p> <p>生涯学習活動の拠点となる社会教育施設につきましては、今後も町民が気持ちよく利用できる施設の管理運営に努めてまいります。</p> <p>いずれの施設も建設してから相当の年月が経過し、老朽化が著しくなっていることから、本年度は、2カ年で実施している文化センターさざ波の調光設備改修のほか、中湧別総合体育館の耐震設計、湧別ゲートボール場の外壁改修などを行い、計画的な整備を進めてまいります。</p> <p>また、今年は合併10周年の年となることから、記念事業として、札幌交響楽団による演奏会を開催し、それに併せて中中高吹奏楽部への楽団員による指導機会をもうけるほか、町民大学など関係団体が開催する合併10周年事業への支援を行い、町民の皆さんが生涯学習をとおして、さらなる湧別町の発展に向けた豊かな人間性を育む取組を進めてまいります。</p>			
事業内容		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 文化団体活動の育成・支援</li> <li>2 各世代のニーズに合った鑑賞機会の提供</li> <li>3 学習の成果を活かす場としての発表機会の提供</li> <li>4 体験事業及び文化活動に親しむ教室の開催</li> <li>5 文化センターの整備充実</li> </ol>			
事業成果		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 文化団体活動の育成・支援 文化連盟及び芸術鑑賞企画団体の事業費を補助し、自主的活動推進を支援した。</li> <li>2 各世代のニーズに合った鑑賞機会の提供 幼児から一般向けの鑑賞機会の提供では、芸術鑑賞企画団体主催を含め、多様な事業を実施し、多くの町民が芸術文化に触れる機会を提供した。また、合併10周年記念事業として札幌交響楽団を招聘し、普段触れる機会の少ないフルオーケストラによる演奏会を開催し、聴衆を満足させる周年事業にふさわしい公演ができた。</li> <li>3 学習の成果を活かす場としての発表機会の提供 文化連盟が実施する地区総合文化祭での展示発表、芸能発表を支援した。また、文化センターさざ波ギャラリー及び文化センターTOMにおいて、文化連盟加盟団体や町民個人等の作品展示を実施し、町民の主体的な文化活動を支援した。</li> <li>4 体験事業及び文化活動に親しむ教室の開催 子どもミュージカル体験事業、アート体感教室を実施し、文化活動の体験機会を提供した。また、カルチャー教室を子ども向けに2講座、一般向けに3講座を実施し、文化活動の体験機会を提供した。</li> <li>5 文化センターの整備充実 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 文化センターさざ波 調光設備（調光盤本体等）更新等の実施</li> <li>(2) 文化センターTOM 非常用設備（非常灯）修繕等の実施</li> </ol> </li> </ol>			

課題	<p>心の糧となる芸術・文化活動は、一般はもとより、これからを担う青少年の創造的な能力を伸ばすためにも、大きな役割を果たすものとして充実していく必要がある。</p> <p>鑑賞と創造が両輪となった芸術・文化活動を推進するためにも、文化センターの計画的な設備の更新をし、芸術文化にふれる機会を提供する必要がある。</p>
改善方策	<p>町民ニーズをふまえた上で、質の高い芸術文化作品の鑑賞機会の提供に努める。</p> <p>青少年が芸術文化に触れる機会の拡充に努める。</p> <p>カルチャー教室、各種体験事業、ワークショップなどの実施により、芸術・文化に親しむ機会の提供に努める。</p> <p>文化連盟を始め、各種文化団体の活動を支援する。</p> <p>芸術文化奨励事業補助等制度の活用促進に努める。</p> <p>学習の成果を活かす場として、町民ギャラリーや総合文化祭等の活用を努める。</p> <p>芸術・文化事業の情報提供に努める。</p> <p>さざ波・TOM両文化センターの特徴を活かした有効活用に努める。</p> <p>文化センターの計画的な設備の更新に努める。</p> <p>道や他市町村、北海道文化財団等の関係機関との連携を図る。</p> <p>文化連盟、芸術鑑賞団体、各種文化団体と連携し、芸術文化の振興に努める。</p>

No.	8	事業名	文化財保護活動・博物館活動	担当課	社会教育課
-----	---	-----	---------------	-----	-------

執行方針	<p>今日の湧別町があるのは、先人たちが多くの苦難を乗り越えて、故郷であるオホーツク原野の開拓に尽くしたからであり、その貴重な資料を保存、展示しているふるさと館JRYと郷土館につきましては、既存の資料の整理及び集約と保護活動をこれからも継続して行ってまいります。</p> <p>文化財につきましては、本町には56ヶ所に及ぶ埋蔵文化財とアッケシソウ群落などの自然文化財があります。特に、北海道指定文化財である「シブノツナイ堅穴住居跡」につきましては、北海道教育委員会により平成27年から29年まで3カ年で再調査が実施され、昨年度からは本町が主体となって、詳細な調査を実施いたしました。本年度も引き続き調査を実施し、現状把握と遺跡の基礎情報の収集を行ない貴重な文化財を将来へと引き継いでまいります。また、見学会や報告会の実施、発掘調査報告書の発行公開等を実施し町民の文化財への理解を広めてまいります。</p>
事業内容	<p>1 文化財保護の実施</p> <p>(1) 埋蔵文化財の保護</p> <p>(2) 自然関連文化財の保護</p> <p>2 博物館資料の整理・保管・展示・収集の実施</p> <p>3 博物館調査研究の実施</p> <p>4 博物館教育の実施</p> <p>(1) 研修・学校授業の実施</p> <p>(2) 博物館講座の実施</p>
事業成果	<p>1 文化財保護の実施</p> <p>(1) 埋蔵文化財調査</p> <p>町主体の発掘調査2年目を実施し、堅穴住居跡の発掘を行った。道指定ながら詳細が不明である「シブノツナイ堅穴住居跡」の調査を進めた。</p> <p>開発行為に伴う埋蔵文化財の保護活動として、開発事業者との事前協議、試掘調査等を実施した。</p> <p>道教委による「川西2遺跡」調査を支援した。</p> <p>(2) 自然関連文化財の保護</p>



事業成果	<p>アッケシソウ群落は経過観察として写真記録を実施。</p> <p>2 博物館資料収集・整理・保管・展示の実施        収蔵庫の管理と保管資料の状況確認、郷土史理解のために重要な資料の選別と整理、資料寄贈への対応等を行った。        ・湧別市川遺跡及び同Ⅱ遺跡の出土資料確認及び台帳作成        ・三宅収蔵資料の整理        ・旧芭露小学校体育館の収蔵庫活用案の立案と予算化        ・郷土館ガイドによる展示解説（ガイド4人、5～9月）</p> <p>3 博物館調査研究の実施        博物館教育論に関する実践報告を行った。（文化庁主催東京）        博物館教育に関する論文が書籍発行された。（「協働する博物館」）</p> <p>4 博物館教育の実施        （1）研修・学校事業の実施        博物館が持つ過去の生活情報の内、日常生活に活用できるものを体験学習化し、町内学校の授業及び各種研修会に歴史学習の機会を提供した。        学芸員による出張授業を実施した。        （2）遺跡調査報告会の実施        令和元年度 発掘調査成果報告会の実施 参加者数49名</p>
課題	<p>埋蔵文化財では町内に所在が確認されている埋蔵地が56ヵ所あり、自然文化財では北海道指定文化財のアッケシソウ群落がある。これらの文化財を次世代に確実に渡すための方策を立案・実行する必要がある。</p> <p>郷土の歴史資料は、安定的な保管方法を確立する必要がある。また、その公開方法も検討する必要がある。</p> <p>教育活動においては効果的な展示方法及び学習効果の高い普及活動を研究し実施する必要がある。</p>
改善方策	<p>1 文化財保護の実施        ・次世代へとつなぐために埋蔵文化財の保護環境の整備に努める。        ・アッケシソウ群落の保護のため、塩生植物の経過観察に努める。</p> <p>2 博物館資料収集・整理・保管・展示の実施        ・収蔵している石器、土器類の分類整理を進め、湧別地区の先史文化の調査研究を行う。        ・郷土館において、先史の展示の充実に努める。        ・収蔵資料の系統的な分類整理を進め活用に備える。        ・資料の長期的、安定的保存のために保存環境を整える。        ・収蔵資料の安定的確保のために常設展示での収蔵展示を進める。        ・次世代を担う子供たちに理解しやすい展示づくりを行う。</p> <p>3 博物館調査研究の実施        ・埋蔵文化財保護活動を充実させるため、町内遺跡に関する調査研究を進める。        ・日常生活への応用が可能な資料に関する調査研究を進めて、展示・教育普及活動へ活用する。        ・学会や研修会への参加により、学芸員の専門性・教育力を高めるための機会を拡充する。</p> <p>4 博物館教育の実施        ・文化財（埋蔵文化財・記念物）を知る機会提供に努める。        ・博物館学習の内容充実に努める。        ・出張学習の内容充実に努める。        ・広報を活用し、博物館活動の周知に努める。</p>

No.	9	事業名	図書館活動振興事業	担当課	社会教育課
執行方針	<p>図書館は、町民の方々の多様なニーズに対応するため、司書の持つ専門的知識と的確な判断により資料の収集、整理、提供に努めております。平成29年度に策定いたしました「湧別町子どもの読書活動推進計画」に基づき、保育所や学校等の関係機関と連携し、本町の子どもたちの読書環境の充実に努めてまいります。</p> <p>子どもが読書活動を始めるきっかけとして「絵本」があります。赤ちゃんが生まれたときに絵本をプレゼントする「ブックスタート」事業、ならびに5歳でもう1冊絵本をプレゼントする「ブックスタートプラス」事業を継続して実施してまいります。</p> <p>また、「絵本」を通じて「本との出会い」「本に親しむ」ことを目的として、本年度より絵本作家を招き「絵本講座」を開催いたします。</p> <p>これからも、図書館が町民の憩いの場として、学び楽しめる町の情報拠点となるよう努力してまいります。</p>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 図書館資料の収集、整理、保存、利用者への読書案内、及び図書等の貸し出しの実施</li> <li>2 各種事業の実施</li> <li>3 各種機関、団体との連携、協力</li> </ol>				
事業成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 図書館資料の収集、整理、保存及び図書等の貸し出しの実施  図書館資料の収集選定方針及び除籍基準により、蔵書管理を行い、町民の読書要求に応え、貸出や情報提供を実施した。  蔵書冊数 140, 274冊（中湧別72, 691冊、湧別67, 583冊）  貸出冊数 88, 238冊（図書86, 194冊、視聴覚2, 044点）</li> <li>2 各種事業の実施  読書感想文・感想画コンクール、ブックスタート事業、絵本講座、子ども図書館講座、子ども読書の日事業、特別展示、映画上映会、古本市、絵本くらぶを実施し、読書に親しむ機会を提供した。</li> <li>3 各種機関、団体との連携、協力  学校図書館用図書の選定協力や、蔵書管理を補助し、児童生徒の読書推進活動を行った。</li> </ol>				
課題	<p>町民の読書傾向を理解し、常に新鮮で適正な蔵書構成を維持するために、両館の特徴を活かした蔵書を計画的に整備（収集及び除籍）する必要がある。</p> <p>学校図書館への支援が望まれている。</p>				
改善方策	<p>町民の読書傾向をふまえた計画的な図書館資料の選択、収集に努める。</p> <p>多様な資料を収集し、中湧別図書館と湧別図書館、並びに移動図書館車における蔵書構成の維持管理に努める。</p> <p>両館それぞれが持つ特徴を活かした展示を行う。</p> <p>移動図書館車を運行し、町内全域に向けて読書活動を推進する。</p> <p>教育施設や保育、福祉施設との連携を図る。</p> <p>子どもの読書活動推進計画により、子どもたちの読書環境を整備する。</p> <p>図書館ボランティアとの連携強化に努める。</p> <p>ネットワークを活用した図書館間の連携を図る。</p>				

#### 4 事業実績表

(1) 令和元年度学校教育事業の実績表

事業名	事業内容等	実績等
教育委員会事務局事業	教育アドバイザーの配置 特別支援教育支援員の配置 中高一貫教育推進事業 湧別高校存続対策事業 教職員健康診断事業	教育アドバイザーを2人配置した。 特別支援教育支援員については、上湧別小学校1人、中湧別小学校3人、湧別小学校4人を配置した。 中高一貫教育については、湧別高校と町内2中学校と1義務教育学校の連携による教育活動を推進し、中高一貫教育推進会議に運営費2,719千円を助成した。 湧別高校存続対策事業については、教科書等購入費補助事業1,717千円、学力向上推進費補助事業1,176千円、海外交流派遣費用補助事業779千円、部活動用具等購入費補助事業2,260千円、部活動クリニック費補助事業150千円、部活動合宿遠征費補助事業572千円、学校体育文化活動費補助事業1,482千円、生徒会補助事業1,092千円、通学費補助事業3,727千円、部活動交通費補助事業113千円を助成した。 教職員健康診断事業については、人間ドック受診者に係る費用を負担したほか、84人の教職員を対象に健康診断を実施した。
教職員住宅整備事業	住宅営繕の実施	教員住宅の維持管理を実施した。
外国語指導助手招へい事業	JETプログラムにより、2名を採用。 プライベートで1名を採用。 小・中学校、湧別高校、児童センターに派遣する。	各小中義務教育学校及び湧別高校へ外国語指導助手として派遣するほか、児童センターにも派遣した。 町民対象の英会話教室及び国際理解教育事業の海外派遣者への事前・事後研修を行った。
小学校管理運営事業	学習サポート事業 ヘルメット購入補助事業 各種健診事業 通学費補助事業 教材等整備事業 就学援助（要保護・準要保護、特別支援学級在籍児童） 学校体育文化活動費助成事業 開盛小学校煙突改修工事	長期休業中に湧高生を小学校に派遣し、学習サポート事業を実施した。 ヘルメット購入費補助については、23件の申請があった。 各種健診事業については、児童に対し、尿検査、ぎょう虫卵検査、内科検診、歯科検診、心臓検診、結核検診を実施した。 通学に係る支援状況については、町営バスの無償利用の他、営業バス利用者への定期券購入費助成、芭露学園児童について公用車による送迎を実施した。 教材用消耗品・学校用図書・学校用備品を計画に基づき整備した。 就学援助では、要保護児童2名、準要保護児童30名、特別支援学級在籍児童12名に対し就学費を援助した。 学校体育文化活動費助成については、小学校の学校教育活動に定める課外活動の大会参加に対し、2件、370千円の助成を行った。 開盛小学校の集合煙突を改修しアスベストの除去を行った。

<p>中学校管理運営事業</p>	<p>各種健診事業 通学費補助事業 教材等整備事業 就学援助（要保護・準要保護、特別支援学級在籍生徒） 学校体育文化活動費助成事業</p>	<p>各種健診事業については、生徒に対し、尿検査、内科検診、歯科検診、心臓検診、結核検診を実施した。 通学に係る支援状況については、町営バスの無償利用の他、営業バス利用者への定期券購入費助成、芭露学園生徒について公用車による送迎を実施した。 教材用消耗品・学校用図書・学校用備品を計画に基づき整備した。 就学援助では、要保護生徒1名、準要保護生徒21名、特別支援学級在籍生徒4名に対し就学費を援助した。 学校体育文化活動費助成については、中・義務教育学校の学校教育活動に定める課外活動の大会参加に対し、15件、4,800千円の助成を行った。</p>
<p>国際理解教育事業</p>	<p>交換留学事業 相互交流事業 英会話教室</p>	<p>交換留学事業は、ニュージーランドから高校生1人・中学生2人を受入し、湧別町からはニュージーランドへ中学生3名を派遣した。 相互交流事業は、ニュージーランドに中高生6人・引率者3名（湧別高校校長含む）を派遣した。派遣者に対して10回の事前研修及び2回の事後研修を行った。 外国語指導助手を講師に初心者及び中級者英会話教室、英語でのクッキング教室を実施した。小学生向け英会話イベントについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止とした。</p>
<p>学校給食センター事業</p>	<p>町内小・中・義務教育学校及び保育所等に給食を提供する。 栄養教諭による食の指導を行う。</p>	<p>計画どおり実施。 給食対象校等の数 13施設（小学校5、中学校2、義務教育学校1、保育所等5） 給食対象人員数 912人（小学校364人、中学校246人、義務教育学校62人、保育所等240人） 年間給食総数 173,359食（小学校66,983食、中学校44,041食、義務教育学校11,398食、保育所等50,937食） 栄養教諭が、小学校3校、中学校1校、義務教育学校1校に延べ22回訪問し、食に関する指導を実施し、小学校2校、義務教育学校1校の調理場見学を受け入れた。</p>

令和元年度社会教育事業

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額	実績(状況)等
基盤整備	生涯学習情報の収集・提供・相談体制の充実	年間	—	○情報収集と提供 ・生涯学習情報紙「湧く湧く」の発行(毎月) ・遠軽地区情報紙「なな・なんと情報」の発行(2カ月に1回)(湧別町が担当町) ・町ホームページによる事業PR ○相談体制の充実 ・学習に関する相談を受けられる体制整備に努める。	「湧く湧く」 印刷費 1,021千円	「湧く湧く」 印刷費 978千円	○情報収集と提供 ・生涯学習情報紙「湧く湧く」の毎月発行 ・遠軽地区情報紙「なな・なんと情報」の発行(2カ月に1回、カラー4ページ) ・町ホームページ(まちの話題等)による事業PR 4月～2月記事数119件 ○相談体制の充実 ・地域住民の主体的取り組みを支援するため、相談体制の充実に努めた。
	指導者の発掘・養成・活用	年間	—	主体的な学習と地域貢献との好循環をすすめるため、様々な分野から指導者を発掘養成し、その活用を図る。	—	—	教室や講演ほか事業の企画にあたって、講師に関する情報を収集し、活用を行った。
	団体活動の支援・育成	年間	—	団体リーダーの養成を図るとともに、団体活動が円滑に行われるよう支援を行う。	—	—	団体の規模や体力をふまえて、主体的な取り組みに向けての協力を行った。
	生涯学習振興奨励事業	年間	—	(生涯学習住民活動推進事業) 町民によるグループ・サークル等が自主的に町民に対して行う講演会や鑑賞会などの学習活動に対して助成を行う。 (補助率75%、ただし極めて公益性が高い場合は100%)	3件 300千円	2件 122千円	・GOKAPIC ヨガ講習・栄養学の講義 8/1 五鹿山公園 ・ヨガ・ベビーマッサージ講習 8/25 TOM(MAMAPAイベント共同開催)
家庭教育	施設の整備・運営・連携	年間	—	施設の計画的な補修や整備を行うとともに事業連携・施設間連携により学習効果の向上を図る。	整備計画別紙	—	別紙社会教育施設整備計画に記載するとおり
	家庭教育研修会	12/8(日)	文化センターTOM	子どもを持つ親が一堂に会し、家庭教育の大切さについて学習を深める機会を提供する。	講師謝礼 100千円 需用費8千円	講師謝礼 40千円	演題:「子どもの健やかな成長を願って」 講師:元谷 恵美氏(南エスカンパニーヘルスアップ・ヨガ・カンパニー) 主催:教育委員会 後援:連合PTA 運営協力:健康子ども課 家庭教育の大切さの啓発を目的に、顔ヨガ教室を実施。25名の参加
	【新規】庁舎内チームへの協力体制構築に向けた取組	4月～	—	新たな家庭教育支援策として、健康こども課による子育て支援の包括的取り組みに対して、家庭教育支援の立場から協力体制を構築するための検討を行う。	—	—	○家庭教育支援と子育て支援の連携強化に向けた打合せ会議の開催 ・第1回 8月30日・第2回 9月20日 ・参加者 健康こども課長、子育て相談G主幹、統括保健師、子育て支援センター担当(湧別、中湧別)、社会教育課長、課長補佐、G主査、教育AD ・議題 家庭教育研修会講師の選考について 家庭教育支援と子育て支援の共通点と連携の重要性について
	家庭教育相談	年間	相談室ほか	教育アドバイザーによる子育ての不安や悩みについて身近に相談する機会を提供する。	—	—	校長と教育AD間の連絡により随時教育相談に対応している。 特に必要とする数名の保護者に対しては、直接の面談も含め継続的に相談をしている。
少年教育	児童宿泊研修会	6/13(木)～14(金)	ネイバル北見	全校の5年生児童を対象に、自然の家の様々な自然体験活動と、宿泊を伴った集団生活を通して、自立・協調・奉仕の尊さと喜びを学ぶことで、社会性を培うとともに、学区外児童の友好と親睦を深める。	1人2,500円 1/2助成 88千円 バス借上料87千円	1人2,500円 1/2助成 77千円 借上料87千円	全小学校の5年生61名、教諭13名、教委2名が参加 各種体験活動を通して、社会性を培う機会を提供。 5/16、6/4担当者会議を開催。担当教諭の連携を密に、スムーズな運営に努めた。また次年度生かすため、7/23反省会議を実施。
	子ども会の育成・援助	年間	—	各地区の子ども会や湧別地区サポート協議会と、その連合組織である青少年指導センターの活動を支援し青少年健全育成に努める。	補助金 400千円	補助金 400千円	子ども会員+育成者(保護者)合計925人(子ども会安全会加入者数より) 青少年指導センター事務局を教育委員会で支援(関連事業に掲載)
	第1回子ども会リーダー研修会	7/29(月)～30(火)	五鹿山公園	地域子ども会が自主的、主体的な運営と活動が進められるよう、地域子ども会の役割を認識させるとともに、リーダーとしての心構えや自覚を促し、そのために必要な知識や技術を習得させる。また、青少年指導員の養成と活躍の機会とする。	青少年指導センター 会計から支出	青少年指導センター 会計から支出	小学生18名参加、リーダークラブの中学生14名が企画・運営。高校生のリーダークラブ4名、青少年指導員4名が当日参加。集団での生活を通してリーダー養成の研修や縦のつながりができた。
	第2回子ども会リーダー研修会	3/26(木)～27(金)	紋別市生涯学習センター	地域子ども会が自主的、主体的な運営と活動が進められるよう、地域子ども会の役割を認識させるとともに、リーダーとしての心構えや自覚を促し、そのために必要な知識や技術を習得させる。また、青少年指導員の養成と活躍の機会とする。	青少年指導センター 会計から支出	青少年指導センター 会計から支出	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

少	北海道ジュニアリーダーコースへの派遣	8/10(土)～12(月)	ネイバル北見	ネイバル北見主催の研修会に各市町村から中学生・高校生を派遣。フィールドワークやワークショップ等を通して地域活動やまちづくりに参画する青少年リーダーを養成する。	参加経費等10千円×3人=30千円	負担金6千円	中学生1名参加。管内の中学生が集まり、体験を通じた交流が行われた。
	百人一首教室	11月～1月 毎週土曜日	農村センター	日本古来の伝統の遊びを通して、ルールを守る大切さや礼儀作法を身につける機会とする。また、指導者の活躍の機会とする。大会は教委主催から実行委と教委との共催へ変更予定。教室は実行委主催。	報償費26千円 需用費65千円	報償費22千円 需用費59千円	(百人一首教室) 実行委員会が主催となり、11月～1月の土曜日 計10回実施 小学生20名、中学生24名参加 (カルタ大会) 小学生 16名6チーム、中学～一般 18名6チームの参加 10/17実行委員会を開催。実行委員14名。
年	第51回新春交歓カルタ大会	1/19(日)					
	湧く湧くわく体験塾	年間 (月1回程度)	町内ほか	小学校4～6年を対象に、体験の機会を提供し、生きる力と地域への愛着を養成する。また、成人ボランティアの指導を仰ぐことで地域の教育力活用にも努める。	報償費30千円 需用費20千円	報償費25千円 需用費20千円	小学生9名登録。5/11入塾式、5/18公園掘り取り販売ボラ、6/8花壇植付、パークゴルフ、6/15農園・パーク、7/13川釣り、8/24農園・パーク、8/31農園収穫、9/7森林体験、9/28収穫祭、10/6販売体験、11/24カーリング体験、12/14ケーキ作り、1/25茶道体験、3/21閉塾式(中止) 協力：農園ボランティア協会、湧別アウトドア、湧別茶道サークル、地域起こし協力隊など、塾長(教育AD)と塾生で活動内容を相談して計画し、それに必要な協力求めている。
教	湧別町・新篠津村友好都市少年交流事業	8/5(月)～7(水)	五鹿山キャンプ場他	両町村から児童の派遣を行い、自然や産業体験学習を通して、お互いのまちの魅力を学び、交流の輪を広げる。また、地元食材の調理をボランティアに依頼し提供する。小学校5～6年およびリーダーとして、中・高校生も参加。	報償費80千円 需用費130千円 保険料16千円 入浴料39千円	報償費70千円 需用費118千円 保険料12千円 入浴料29千円	湧別町20名、新篠津村8名の小学生及び中学生～大学生のボランティア11名(湧別6名)が参加し、今年度は湧別町で実施。仲間づくりゲームや郷土学習、キャンプ体験などを通して交流を深めることができた。昼食作りボランティア13名
青年教育	青年団体の育成・援助	年間	青年会館ほか	子どもを対象とした冬季事業、新篠津村青年団との交流事業など、地域活性化に取り組む青年団体協議会を支援する。名称を湧別町青年団体協議会へ変更予定。	補助金 160千円	補助金 160千円	H31/3/25総会の開催 5/18、19日チューリップフェアイイベント開催、7月6、7日屯田七夕まつりイベント参加、新篠津村青年団との交流会、2月1日子ども雪中王様ドッチボール大会企画運営。
	成人式	1/12(日)	文化センターさざ波	新成人を祝い励ますとともに、式を契機に社会人としての意識高揚を図る。 ※現小学6年生に「20歳の自分へ」の作文収集	報償費429千円 需用費41千円	報償費358千円 需用費41千円	成人式出席者 79人 成人式交流会 ボランティアによる地元の食材を使用した軽食を提供、また地域起こし協力隊がメニューの一部を監修した。
成人	【合併10周年記念事業】第43回湧別町民大学	9月～11月 至5回	文化センターTOM	実行委員会主催。各ジャンル講師を招き、今日的課題や地域課題等の解決に向けた学習機会提供に努める。人材育成の観点から、講師と関わる機会を増やしたい。今回は合併記念事業につき、町との連携強化を図りたい。	運営費助成 3,000千円 (前年比+1,000千円)	運営費助成 2,700千円	5/29、7/24に実行委員会開催 9/11池田清彦氏(189名)、10/1森崎博之氏(323名)、10/24金哲彦氏(141名)、10/31やましたひでこ氏(210名)、11/12伊藤健次氏(109名) 合併10周年記念講演(森崎氏)、協力企業を募集、湧別中学校陸上部への指導協力(金氏)
	第9回ふるさと講座	10/26(土)	JAゆうへつ町	町の人を講師に、歴史、産業、地域等について価値を探り、学び合い、地域貢献につながる機会を提供する。「ふるさとから学ぶ会」との共催。	講師謝礼 20千円	講師謝礼 15千円	関係者を含め60名の参加 ①「湧別町の酪農のあゆみ」野田直人氏、②「酪農への思いを語る」『酪農を夢見て北海道へ』松浦三代紀氏、③『昭和・平成・令和～獣医師として、酪農への思い』増田悦郎氏、④『酪農家の願いをまとも経営を支える』友澤勇司氏より、酪農とくらしとの関わりについて学んだ。
教	第8回我がまち湧別町のお宝をたずねる旅	6/22(土)	登栄床方面	普段見落としがちな町の価値(=お宝)を、それに詳しい講師の案内によってバスツアー形式でたずね歩き価値を共有する機会として開催。	講師謝礼10千円 借上料61千円	講師謝礼15千円 借上料93千円	関係者を含め64名の参加。①登栄床漁港(町元直春氏)、②竜宮台(嘉藤昇男氏)、③サギ沼(湧別アウトドア)をめくった。学び会と案内人との十分な打合せの上、効果的に学びを深められた。
	P T A団体への援助	年間	-	各学校のP T Aやその連合組織である町P T A連合会の学習活動を支援する。	補助金 180千円	補助金 180千円	連合P T A事業運営費の補助を実施。
育	ボランティア団体との連携	年間	文化センターさざ波ほか	はまなすボランティアなど自主的な奉仕活動を支援する。	-	-	はまなすボランティアによる施設研修会(6/7東川町)への支援

高 齢 者 教 育	チューリップ生 きがい大学の開設	年 間	文化センター・さ ざ波ほか	高齢者が充実した生活を送られるよう学習活動の機会 を提供する。自主活動としてのクラブ活動も支援す る。統合2年目を迎え、役割分担の明確化を図る。	報償費291千円 需用費51千円 印刷製本119千円 バス借上料1,166千円	報償費165千円 需用費18千円 印刷製本84千円 バス借上料479千円	172名入級、6クラブ、4/25開講式、5/21チューリップ公園散策、6/25町内バスツアー、7/11日 帰り研修(北見)、8/26~28研修旅行(東神楽・美瑛方面)、9/26映画鑑賞会、10/23ふれあい運動 会、11/14講演会、12/6クラブ活動発表会、1/24講演会、3/6開講式、お楽しみ会(中止)
	世代間交流事業・ 社会活動参加奨励	年 間	学校ほか	小中学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊 かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに 相互の交流を図る。	—	—	学校からの依頼を受け、総合的な学習の時間への支援を実施 10/16 クラブ活動と上湧別中学校3年生との交流 12/3 湧別小学校3年生との昔の遊び交流
芸 術	文化団体の育成援 助	年 間	—	芸術文化活動の振興を図るため文化連盟等の育成援助 を行う。	補助金 400千円	補助金 340千円	湧別地区文化協会14団体、上湧別地区文化協会18団体の両地区文化協会を傘下に、地区総合文化祭など の文化活動を展開する。現在、両文化協会の統合についての話し合いを進めている。
	鑑賞機会提供団体 の育成援助	年 間	文化セン ター	A.良いもの見よう聞こう会の活動支援 B.企画委員会ビッグ・ウェーブの活動支援 C.その他実行委員会等への活動支援	補助金 10,000千円	補助金 4,990千円	A.良いもの見よう聞こう会 2公演 B.企画委員会ビッグ・ウェーブ 1公演 C.その他実行委員会 0公演
文 化	幼児芸術鑑賞会	7/9(火) 10(水)	児童セン ター	幼児対象(2日 2公演) 公演内容 「てじ」劇団鳥獣戯画	公演料 500千円	公演料 393千円	(有)劇団鳥獣戯画「ありこさんの紙芝居ミュージカル てじ」公演(紙芝居、歌、ダンスの融合) 7/9 なかよし児童センター 児童124名 保育士保護者等27名 計151名 7/10 湧別児童センター 児童71名 保育士保護者等14名 計85名 合計236名鑑賞
	児童芸術鑑賞会	9/4(水)	文化セン ターさざ波	小学生対象(1公演) 公演内容 「アフリカの音楽」 ※紋別市鑑賞会8/30へ小学校高学年が参加予定	公演料 500千円	公演料 420千円	傑笑う猫「アフリカの音楽「魂の鼓動」」小学生196名 先生31名 PTA3名 合計230名鑑賞 4 校は1~4年生、2校は1~6年生が鑑賞 ※5~6年生は、8/30(金)紋別市で劇団四季こころの劇場「はだかの王様」を鑑賞。次年度は休止。
	中学生芸術鑑賞会	10/4(金)	文化セン ター	中学生対象(1公演) 公演内容 「ヒカプレフ クラジュアルコンサート」	公演料 500千円	公演料 240千円	ヴァイオリンカルテット ヒカプレフ「クラジュアルコンサート」 中学生218名 先生34名 PTA0名 合計252名鑑賞
	【湧別町合併10周 年記念】札幌湧別 公演	7/28(日)	文化セン ターさざ波	一般対象(1公演) 公演内容 札幌交響楽団演奏会 入場無料 ・北海道教職員互助会から経費全額助成 ・中高吹奏楽部向けにワークショップも計画	公演料 0円 広報等430千円 ワークショップ 経費 496千円	公演料 0円 広報等348千円 ワークショップ 経費 432千円	(公財)札幌交響楽団 「一助 北海道公立学校教職員互助会 札幌交響楽団公演事業 湧別町合併10周年記念事業 札幌湧別公演」 入場者数: 335名 町内4校吹奏楽部向けワークショップ(29日) 参加部員: 46名(他担当教諭)
活 動	アート体感教室	1/27(月)~ 1/30(木)	邑霧学園	国内外で活躍するアーティストが学校等に出向き、子 供達と一緒にワークショップや創作活動を行い交流す る。 内容:校歌のオリジナルカラオケ映像の制作 講師:アサダワタル ※北海道文化財団の主催事業で、講師への謝金 や旅費は北海道文化財団が全額負担	事業費 0円	事業費 0円	1週間、邑霧学園で休み時間や放課後を利用し、精力的に児童・生徒とコミュニケーションを図った。習字 で校歌の文字を書いたり、思い思いの場所で校歌を歌って撮影するなど、当初の目的である交流が深まった。 最終日である31日は、大雪による休校で活動が中止となったため、急遽、文化センターTOMで編集 作業を行った。 期間: 1/27(月)~31(金) 大雪による休校のため1/31は中止。
動 の 振 興	第10回子ども ミュージカル体験 事業	1/5~11 発表会 1/11(土)	文化セン ターTOM	子どもを対象に、専門家の指導によるミュージカル演 劇の練習から発表までを体験することにより、芸術文 化を楽しむる素養を養い、コミュニケーション力の向 上と連帯感の醸成を図る。	事業費 1,120千円	事業費 1,119千円	参加者(小中高生)12名、(一般)2名 ボランティア(参加者家族、中高生)数名 講師 劇団鳥獣戯画5名 ミュージカル体験事業発表会「関ヶ原は今日も雨だった」 観客数139名 ※道より「いきいきふるさと推進事業助成金」として560千円が助成
	文化芸術作品展示 会等の奨励	年 間	文化セン ター	湧別町文化連盟加盟団体や町民個人を中心に、絵画や 写真などの展示を実施し、芸術文化活動の振興を図 る。	—	—	文化センターさざ波ギャラリー展示 「鈴木紀久雄絵画展」 4/30~5/9 「伊藤英二水彩画展」 7/11~7/28 「湧別カメクラブ写真展」 6/21~7/5、11/1~14、3/14~26 文化センターTOMギャラリー展示 「瀧口 瑞子 布とあそび」 8/8~8/18 常設展示~絵画、写真、俳句、手芸、美石
	カルチャー教室	年 間	町内施設	子どもから大人までを対象に趣味や一般教養など町民 のニーズに合った講座等の開催に努める。	講師謝礼 80千円	講師謝礼 56千円	子ども陶芸教室 7/13(土)、8/1(木)、8/13(火) 老人憩の家陶芸室 小学生17名参加 子ども木工教室 8/1(木) 老人憩の家木工室 小学生11名参加 テコバージュ教室 11/17(日) さざ波中会議室 町民4名参加 サンドアートフラワー教室 12/15(日) さざ波中会議室 町民6名参加 プレスレット作り 2/8(土) さざ波2階団体研修室 町民5名参加



大 会 の 開 催 等	第34回サロマ湖 100kmウルトラマ ラソン	6/30 (日)	湧別総合 体育館裏	100kmスタート午前5時00分(100kmの部) 総合体育館裏(東道路上) 6/29にはウェルカムパーティー・開会式を開催	負担金3,000千円	負担金3,000千円	100kmの部 出走者数3,281名 完走者2,435名 完走率74.2% 50kmの部 出走者数 489名 完走者 426名 完走率87.1%
	【新規】 湧別町10周年記 念 湧別町・新篠 津村野球交流事業	9/14(土) ~15(日)	湧別野球 場・中湧 別球場	湧別町合併10周年を記念し、小学生を対象に少年野 球大会を開催し、児童間の親睦と交流の輪を広げる。 (湧別マリナース、中湧別野球少年団参加予定)	消耗品30千円 食糧費147千円 入浴料25千円	消耗品32千円 食糧費86千円 入浴料6千円	9/14(土) 1試合目：新篠津ファイターズ対中湧別野球スポーツ少年団 2試合目：新篠津ファイターズ 対湧別マリナース 試合終了後、夕食交流会を実施 9/15(日) 雨天のため、湧別総合体育館においてレクリエーション(王様ドッチボール)を実施
	【合併10周年記 念】 湧別町少年柔道大 会「上野カップ 2019」	10/12(土) ~13(日)	湧別総合 体育館・ 武道館	本町のふるさと応援大使であり、柔道オリンピックメ ダリストの上野姉妹の冠を掲げた全道規模の小・中 学生の柔道大会を開催することにより、少年相互の親睦 を深め、町の活性化や交流人口の増加を図る。 参加規模：道内外小・中学生400名 大会には上野姉妹のほか、現役の女子柔道の著名人を 招致する予定。 合併10周年記念として、はなわ親子を招致する予 定。	歳入総額 625千円 歳出総額 3,861千円	歳入総額 578千円 歳出総額 3,371千円	10月12日 柔道教室 参加者189名 (内町内参加者4名) 10月13日 柔道大会 参加者371名 サイン会(第1部)参加者80名 (第2部)参加者79名 抽選会 344名
	町民体カテスト	10/6(日)	文化セン ターさざ波	町民に対してスポーツや運動を継続して続けることの 大切さや健康づくりを高めるきっかけづくりを図る。	スポーツ推進委員 報酬60千円	スポーツ推進委員 報酬15千円	湧別町元気まつりとタイアップして実施 体カテスト 参加者29名 スポーツ推進委員 出役5名
	第44回町民300歳 バレーボール大会	12/1(日)	湧別・中 湧別総体	自治会対抗形式9人制バレーボール大会	消耗品26千円	消耗品26千円	12チーム 156名参加 第1グループ優勝：栄町・東・緑町、準優勝：南町B、第3位：開盛、錦町・川西 第2グループ優勝：北町・中町、準優勝：屯市B、第3位：屯市C、5の1
ス ポ ー ツ 教 室 ・ 講 習 会 事 業	ジュニアスイミン グスクール	7/9(火) ~12(金) 9/24(火) ~27(金)	湧別プール (第1回) 湧別プール (第2回)	正しい泳法を習得させるとともに、泳ぐことの楽しさ を味わわせ、水泳の普及拡大を図る。	講師謝礼 48千円 スポーツ推進委員 報酬24千円	講師謝礼 48千円	第1回 1~2年生(44名)138名、3~6年生(18名)38名 第2回 1~6年生(29名)76名
	町民ランニング教 室	4/27(土) ~28(日)	湧別中学 校 百年記念 広場	基本姿勢から高度な技術、さらには運動前後のスト レッチを習得することで、運動能力の向上や怪我の予 防、運動を始めるきっかけづくりを図る。 ①中学・高校部活動の部 ②ランニング教室 ③陸上 教室 講 師：作. AC北海道代表 作田 徹 氏 片山 純 氏 作. AC北海道 片山 志保 氏 澤井 玄 氏 サポート：北海道大学陸上部 対象：小学生~一般	講師謝礼120千円	講師謝礼120千円	4月27日(土)ランニング教室 中学・高校生の部 32名(中学生32名) ランニング教室 一般の部 16名 4月28日(日)陸上教室(小学生対象) 30名
	少年少女初心者ス ケート教室	1/6(月) ~9(金)	湧別町芭 露スケー トリック	初心者に対してスケートの楽しさを味わわせるととも に、技法を習得させる。	講師謝礼 12千円 スポーツ推進委員 報酬12千円		少雪の影響により中止
クロスカントリー スキー教室	2/8(土)	五鹿山ス キー場	スキーの楽しさを味わわせるとともに、初心者から上 級者まで幅広い技法を習得させる。 講師：島田 武彦氏	講師謝礼 60千円 スポーツ推進委員 報酬9千円	講師謝礼 60千円 スポーツ推進委員 報酬7千円	教室参加者16名	
【新規】 健康運動教室	4月~3月	湧別総合 体育館	トレーニング器具等を使った個人(または集団や団 体)指導を行うことにより町民に健康維持増進と体力 の向上を図る。 講師 フィットネスアドバイザー 橋本 めぐみ 運動指導職員 原 栄歌	講師謝礼600千円	講師謝礼600千円	4月参加者36名、5月参加者28名、6月参加者33名 7月参加者27名、8月参加者37名、9月参加者39名 10月参加者31名、11月参加者15名、12月参加者38名 1月参加者33名、2月参加者19名	

スポーツ推進委員	チャレンジスポーツスクール事業	5月～3月	湧別総合体育館他	<p>低学年から様々なスポーツに触れることで、自分に合ったスポーツを見つけ出すきっかけづくりと、学校を越えた友達づくりの一助とする。1～3年生対象。</p> <p>5月 五鹿山マラソン2019参加（五鹿山スキー場）  6月 フットベース（湧別総合体育館裏）  7月 柔道体験（湧別総合体育館）  7月 キャンプ（湧別総合体育館裏）  8月 合気道体験（レイクパレス）  9月 バークゴルフ（湧別総合体育館）  10月 風船バレー・ミニバレー（湧別総合体育館）  11月 カローリング・ハッピーボウリング・ベタンク（湧別総合体育館）  12月 フロアボール（湧別総合体育館）  1月 スケート体験・氷上ホッケー（芭露スケートリンク）  2月 タグラグビー（湧別総合体育館）  3月 ミニ運動会・卒業式（湧別総合体育館）</p>	<p>講師謝礼 バークゴルフ 10千円 フロアボール 10千円 タグラグビー 10千円</p> <p>スポーツ推進委員 報酬312千円</p>	<p>講師謝礼 バークゴルフ 5千円 フロアボール 10千円 タグラグビー 5千円</p> <p>スポーツ推進委員 報酬223千円</p>	<p>5月12日 入学式・五鹿山マラソン：33名  6月2日 フットベース：36名  7月14日 柔道体験教室：25名  7月26日～27日 キャンプ：37名  8月31日 合気道体験：27名  9月14日 バークゴルフ：24名  10月19日 風船バレー：28名  11月23日 軽スポーツ3種：31名  12月7日 フロアボール：24名  1月18日 鬼ごっこ・ドッチボール：31名  2月15日 タグラグビー：19名  3月 中止</p>
	巡回スポーツ指導	随時	町内	<p>自治会・老人クラブ等の要請に基づき、スポーツ推進委員が出向き、軽スポーツやレクリエーションの指導を行う。</p>	<p>スポーツ推進委員 報酬24千円</p>		
事業	スポーツ推進委員研修	随時	管内道内	<p>町民のスポーツ活動の的確な支援を行うため、研修を通じて委員としての資質向上を図る。  遠軽・紋別地区スポーツ推進委員研修会  オホーツク管内社会体育振興セミナー  北海道スポーツ推進委員研究協議会</p>	<p>スポーツ推進委員 報酬154千円 費用弁償97千円</p>	<p>スポーツ推進委員 報酬135千円 費用弁償84千円</p>	<p>6/16（日）遠軽・紋別地区スポーツ推進委員研修会 湧別町 9名  10/24（木）～25（金）第61回北海道スポーツ推進委員研究協議会 札幌市 4名  11/9（土）～10（日）オホーツク管内社会体育振興セミナー 小清水町 3名</p>
	団体活動の育成援助等						
施設の整備活用	少年スポーツ団体の育成援助	年間	-	少年団本部への補助	補助金600千円	補助金600千円	
	一般スポーツ団体の育成援助	年間	-	体育協会への補助	補助金815千円 （内10周年事業200千円）	補助金741千円 （内10周年事業200千円）	
	大会出場助成	年間	-	全道大会以上の出場者に対して遠征費の一部を助成する。（湧別町スポーツ・文化遠征費補助金）	補助金2,000千円	補助金1,697千円	12件 補助金1,697千円
	合宿誘致助成	年間	各施設	合宿を誘致することにより町のスポーツの振興を図る。（湧別町スポーツ・文化合宿誘致事業補助金）	補助金4,284千円 詳細は別紙関連事業に記載のとおり	補助金1,421千円	4件 補助金1,421千円
施設	施設の整備	年間	各施設	施設の点検、適正な維持管理を図る。	詳細は別紙社会教育施設整備計画のとおり		別紙社会教育施設整備計画のとおり
	施設の活用	年間	各施設	指定管理施設の適正かつ効率的な運営に対する監督、学校開放施設に関する利用調整など体育施設の有効活用を図る。	学校開放運営報償90千円	学校開放主事への謝礼46千円	学校開放主事（各小中学校教頭）と連携し、学校施設の有効活用を行った
その他	スポーツ安全保険の加入促進	随時	-	広報及び事故手続き等の補助	-		

図書館	図書館資料の収集、整理、保存	通年	両館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民ニーズに合った図書、逐次刊行物、視聴覚資料等を計画的に幅広く、豊富に備え、保存する。常に新鮮で適切な蔵書構成を維持する。</li> <li>・本の修理ボランティア活動</li> </ul>	資料費（図書、雑誌、新聞、視聴覚） 8,280千円	消耗品費 8,170千円	蔵書冊数 図書 中湧別 72,691冊+湧別 67,583冊=140,274冊 雑誌 中湧別 857冊+湧別 896冊=1,753冊 視聴覚資料 中湧別 1,269点+湧別 1,758点=3,027点
	利用促進、読書機会の提供	通年	両館	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べものの相談、案内を通して利用促進を行う。</li> <li>・小中高連携、学校支援の強化</li> <li>・図書館見学の受け入れ</li> <li>・インターシッフ</li> <li>・特別開館（夏、冬休み期間の月曜日）</li> </ul>	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者 中湧別 13,667名+湧別 6,078名=19,745名（前年 中湧別 13,651名+湧別 6,476名=20,127名）</li> <li>・本館貸出人数 中湧別 9,038名+湧別 4,758名=13,796名（前年 中湧別 8,824名+湧別 4,803名=13,627名）</li> <li>・本館貸出冊数 中湧別 33,792冊+湧別 17,297冊=51,089冊（前年 中湧別 32,345冊+湧別 16,974冊=49,319冊）</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>新着図書案内や図書館行事など、最新情報の提供に努める。</li> <li>・読書通帳提供</li> <li>・図書館だより、新着図書案内の発行</li> <li>・ホームページの活用</li> </ul>	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展示の実施</li> <li>・ブックガイド、読書通帳発行、配布</li> <li>・図書館見学（外国人研修生、各小学校、保育所）</li> <li>・図書館だより、新着図書案内の発行</li> <li>・ホームページの更新</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>来館が困難な町民に対して宅配便を活用して個別に配達貸出を行う。</li> <li>・宅配貸出サービス</li> </ul>	-	-	登録者 1名 延べ利用数 149冊
ブックスタート	毎月1回	健診会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>4ヶ月児健診時に、乳児とその保護者へブックスタートバック（絵本などが入ったバック）をメッセージと共に手渡す。また、5歳児健診時には絵本を1冊とブックガイドを渡す。</li> <li>協力（バック制作）</li> <li>・ルビナスの会</li> <li>・湧高ボランティア部</li> <li>協力（読み聞かせ）</li> <li>・リーディング倶楽部たんぽぽ</li> </ul>	報償費 4か月 60人分 75千円 5歳 60人分 80千円	ブックスタート 75千円 ブックスタートプラス 70千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックスタート 33組</li> <li>・ブックスタートプラス 35組</li> </ul>	
活動	絵本くらぶ	年間 (毎月1回)	両館	3歳までの乳幼児がいる家庭におすすり本セットを宅配する。（登録制）	-	-	・述べ286名 1,430冊
	第10回湧別町読書感想文・感想画コンクール	6月～3月	両館	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書に親しみ、読書の楽しさを体験するとともに、読後の感動を文章や絵画に表現することをとおして、豊かな人間性や考える力を育む機会とする。</li> <li>①募集期間 7月～10月（応募〆切10月上旬）</li> <li>②対象 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生 読書感想画（1～3年生）</li> <li>読書感想文（4～6年生）</li> <li>・中学生 読書感想文（1～3年生）</li> <li>・高校生 読書感想文（1～3年生）</li> </ul> </li> <li>③審査委員会議 11月下旬</li> <li>④読書感想画展示会 12月～1月</li> <li>⑤入選作品発表 12月上旬</li> <li>⑥入賞作品集作成 2月下旬</li> </ul>	報償費 322千円	報償費 294千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募数 521点</li> <li>・12/14読書感想画展示（中湧別図書館）</li> <li>・1月文集発行 100部</li> </ul>
	子ども図書館講座	9月	児童センター	「ことばの貯金箱」 小学生を対象に工作活動を行いながら読書に親しむ機会とする。	-	-	・「ことばの貯金箱」 13名 (9/21) 湧別児童センター、中湧別児童センター

図	読み聞かせ	年間	両館	対象 ・0歳児：ブックスタート事業 ・0歳児～小学生：図書館、児童センター、学校等協力 ・読み聞かせボランティア「りんごっこ」(2名) ・リーディング倶楽部たんぽぽ(11名) ・湧高ボランティア部(7名) 場所 ・湧小(リーディング倶楽部たんぽぽ) ・子育て支援センター ・児童センター ・オープンブックカフェ 読み聞かせボランティアと連携し、定期的な読み聞かせ活動を実施する。また、湧高ボランティア部生徒への読み聞かせ指導を行う。	-		・中湧別図書館 24回 127名(ボランティア 110名) ・ばすてる 8/29 6名 ・ぼれぼれ 8/29 9名  ・なかよし児童センター 12/14 ・湧別子育て支援センター 12/20  ・オープンブックカフェ 毎月訪問
	映画上映会	通年(毎月1回)	湧別図書館	湧別図書館の多目的室を活かし定期的に映画会を行う。	消耗品 200千円(DVD)	消耗品 45千円	5回 79名 ・はまなす映画会 8/22 15名
書	古本市	7月・10月	両館	古本、古雑誌のリサイクル活動。 協力：湧高ボランティア部	-		・湧別図書館 7/28 81名 1,076冊 ・中湧別図書館 10/6 444名 2,998冊 ・湧別図書館 10/27 79名 1,053冊
	特別展示	9月～10月	両館	町民大学講師著作展示	-		町民大学講師著作展示
館		年間	両館	テーマ：年中行事	-		イースター、こどもの日、道新親と子サンデー、父の日、七夕、日本絵本賞、絶版本、平成アニメ、読書感想文画コンクールおすすめ本、きれいな写真集、クリスマス、ベストミステリー、ぬくぬく絵本、節分、本屋大賞、絵本屋さん大賞、ひな祭、絵葉書、レシピ本大賞、しかけ絵本、イースター
		4/23～5/10	両館	子ども読書週間展示			子ども読書週間展示「真珠まりの世界」、子ども読書週間展示「ようちえん絵本大賞」
		8/7～8/18	中湧別図書館	原画展示(遠紋地区図書館合同事業)	著作物使用料 30千円	著作物使用料 20千円	絵本原画巡回展「もりのやきゅうちーむふあいたーず」
		年間	両館	協力展示(展示スペースの貸出)	-		教科書、ペネロペ、中小3年おすすめ本、湧別カメラクラブ
	移動図書館車の運行	通年	両館	移動図書館車で町内を巡回し、広域サービスを実施する。機動性を活かし遠隔地域を中心に据え、子どもから大人まで図書に出会う場を広げ、読書活動の推進を図る。 図書館職員が選本した文庫を配本する。 ・各小中学校、湧別高校 ・各郵便局 ・児童施設 ・高齢者施設等			・個人団体貸出冊数 33,675冊(昨年 37,820冊) 内訳 個人 11,386冊(昨年 12,775冊) 団体 22,289冊(昨年 25,045冊)
動	連携・ネットワーク	通年	両館	町内各施設や関連部署、近隣市町図書館との広域連携を図る。  ・紋別遠軽ブロック研修 ・学校図書館支援 ・図書館協議会委員視察研修 ・就学時健診「読書オリエンテーション」 ◎図書館システム更新 ◎絵本講座 1回	更新業務委託料 432千円 備品購入費 3,353千円  絵本講座講師謝礼 100千円	更新業務委託料 432千円 備品購入費 3,337千円  絵本講座講師謝礼 100千円	・5/7「図書見本展示」上湧別中学校 ・7/31 図書館協議会委員視察研修 ・8/1「おはげやしき」ばすてる ・9/1 図書館システム更新 ・9/18「職場体験」中学生 7名 ・9/25 中高一貫教育STCプログラム「職業と私」講演会 ・10/23「職場体験」高校生 5名 ・10/6「もったいないばあさんのおはなし会」 ・10/2, 8「読書オリエンテーション」(就学時健診) ・学校図書館支援事業(全校)

文化財保護	文化財の保護① 埋蔵文化財	年間	町内各所	<ul style="list-style-type: none"> <li>○開発行為に伴う埋蔵文化財の保護活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・開発事業者との事前協議と各種調査</li> <li>・埋蔵文化財包蔵地地図の整備</li> </ul> </li> <li>○埋蔵文化財包蔵地の状況把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状確認作業（遺跡パトロールの実施）</li> </ul> </li> <li>◎シブノツナイ竪穴住居跡の発掘調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>遺跡の範囲確認と竪穴住居群北側平坦地の内容確認</li> <li>*7～8月の内、4週間程度</li> </ul> </li> <li>○道教委による重要遺跡確認調査の支援（川西2遺跡）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○開発行為に伴う埋蔵文化財包蔵地の保護活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・埋蔵文化財保護のための事前協議：18件</li> <li>・所在調査：1件（新たな埋蔵文化財包蔵地は確認されなかった。）</li> <li>・包蔵地カードの内容確認作業（地番と土地所有者の確認）</li> </ul> </li> <li>○埋蔵文化財の保護・活用のための調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>◎シブノツナイ竪穴住居群の発掘調査 7月14日から8月14日</li> <li>・フォーラム「北海道古代集落遺跡」参加（札幌市）</li> </ul> </li> <li>○道教委による重要遺跡確認調査の支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・川西2遺跡の測量調査 9月2日から27日</li> </ul> </li> <li>◎文化庁調査官による現地視察 <ul style="list-style-type: none"> <li>シブノツナイ竪穴住居群、川西2遺跡、川西オホーツク遺跡の関連と国史跡について</li> </ul> </li> <li>○令和2年度第2回 竪穴住居群調査懇談会 参加 ⇒中止</li> <li>令和2年3月18日 主催：道教委</li> </ul>
	文化財の保護② 自然関連	年間	町内各所	<ul style="list-style-type: none"> <li>○北海道指定文化財アッケシ草群の経過</li> <li>○天然記念物の現状変更手続（死亡・はく製・調査） <ul style="list-style-type: none"> <li>・オジロワシ</li> <li>・タンチョウ</li> </ul> </li> <li>○記念木業務における関連部署との調整</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○北海道指定文化財「佐呂間湖畔鶴沼のアッケシワウ群落」の経過観察 <ul style="list-style-type: none"> <li>・経過観察の実施（9月）</li> </ul> </li> <li>○天然記念物の手続（死亡・はく製・調査） <ul style="list-style-type: none"> <li>・1件</li> </ul> </li> <li>○記念木 <ul style="list-style-type: none"> <li>・問い合わせ対応による現地確認（北兵村二区高台：原生樹林）</li> </ul> </li> </ul>
博物館活動	博物館資料① 収集	年間	郷土館・ふるさと館JRY	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料寄贈への対応（おおむね昭和20年代以前の資料を対象）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料寄贈への対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄贈資料受入4件（鉄道関連資料ほか）</li> <li>・埋蔵文化財の譲与申請1件</li> <li>*平成30年度発掘調査資料（遺跡名：シブノツナイ竪穴住居群）</li> </ul> </li> </ul>
	博物館資料② 整理・保管	年間	郷土館・ふるさと館JRY・収蔵庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○考古資料 <ul style="list-style-type: none"> <li>◎重要資料の確認作業と台帳の作成（湧別市川遺跡資料の計測を中心に）</li> <li>・考古資料収集家、三宅資料の整理</li> </ul> </li> <li>○開拓関連資料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の写真撮影</li> <li>・保存環境の整備</li> </ul> </li> <li>○収蔵庫の管理と保管資料の状況確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・分類整理（同種資料整理）</li> <li>・資料外保管物の処分</li> <li>・郷土資料収蔵館収蔵量増加</li> <li>・移動の準備</li> </ul> </li> <li>○収蔵資料の特別利用許可に関する事務</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○考古資料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・湧別市川遺跡出土資料の計測と資料台帳作成</li> </ul> </li> <li>◎三宅コレクションの整理と台帳整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・メネ有（86袋：土器1492点、石器1890点、骨12点）</li> </ul> </li> <li>○収蔵庫の管理と保管資料の状況確認 <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧芭露小学校体育館の収蔵庫利用の検討</li> <li>・移動式収蔵棚の施策</li> </ul> </li> <li>○収蔵資料の特別利用許可 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4件（湧別市川遺跡出土資料ほか）</li> </ul> </li> </ul>
	展示	年間	郷土館  ふるさと館JRY	<ul style="list-style-type: none"> <li>○収蔵資料の展示 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シブノツナイ竪穴住居群の30年度調査成果展（仮）</li> </ul> </li> <li>○郷土館ボランティアガイド <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示解説（5月～9月）</li> <li>・解説活動のためのガイド研修会</li> </ul> </li> </ul>	ガイド報償費 66千円 (1,500円×44回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○展示 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シブノツナイ竪穴住居群 平成30年度調査速報展：6月28日から12月29日まで</li> <li>・「ほかのまちの動物形土製品『ビビちゃん』展」：6月28日から9月27日まで</li> <li>道立埋蔵文化財センターから資料借用1点</li> </ul> </li> <li>○郷土館ガイド <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月～9月で実施。ガイド活動期間は入館者数704人</li> <li>・100キロマラソン前日の展示解説会：6月29日 212人</li> <li>・研修会：9月16日 川西2遺跡現地説明会参加 24人</li> <li>・土野カップ当日の展示解説会：10月13日 48人</li> </ul> </li> <li>○入館者数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・966人（大人711人、内町民117人、子ども255人、内町民157人）</li> </ul> </li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>○常設展示更新 <ul style="list-style-type: none"> <li>・解説パネルの追加</li> <li>・整理済み資料の追加</li> </ul> </li> <li>○収蔵展示室整備</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○入館者数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2,627人（大人2,065人、内町民129人、子ども562人、内町民195人）</li> </ul> </li> </ul>	

博 物 館 活 動	調査研究	年 間	—	<p>【博物館資料・文化財の保存】</p> <p>○開拓の歴史</p> <p>◎屯田資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文書資料等の分類整理</li> <li>・冬季演習資料の分析</li> </ul> <p>○先史文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シブノツナイ竪穴住居群</li> <li>・平成31年度発掘調査報告書作成</li> </ul> <p>【博物館資料・文化財の活用】</p> <p>○開拓の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開拓期の衣食住</li> <li>・冬季の生活</li> </ul> <p>○先史文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺跡を活用した博物館教育の研究と実践</li> </ul>		<p>【博物館資料・文化財の保存】</p> <p>○開拓の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵資料の保存に関する調査研究（害虫等）</li> <li>・大型薄荷釜の清掃修繕等</li> <li>・資料清掃・注記（鋸、斧等）</li> </ul> <p>○先史文化（埋蔵文化財・博物館教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集：シブノツナイ竪穴住居跡の地形改変（造成）の変遷</li> <li>・化学分析：石製装飾品（湧別市川遺跡出土）の石材同定（分析）北海道教育大学名誉教授 岡村聡</li> <li>・発掘調査：シブノツナイ竪穴住居跡 令和元年度発掘調査概要報告書（3月下旬発行予定）</li> </ul> <p>【博物館資料・文化財の活用】</p> <p>○開拓の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火・炊飯体験の方法研究</li> <li>・冬季の生活</li> </ul> <p>○先史文化（埋蔵文化財・博物館学）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究：遺跡散策ガイドブック『遺跡のミカタ』の更新</li> <li>・研究論文：『博物館が連携・協働する教育普及活動の試行錯誤』『協働する博物館』シダヤ社（5月発行）</li> <li>・事例発表：博物館学芸員専門講座「多様な機関と連携する博物館」（文化庁・国立教育政策研究所主催）</li> </ul> <p>12月12日、東京都</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿提供：道博協学芸員部会第6回コラム『学芸員のひみつ道具』</li> <li>『大事なことはその場でメモ！野外調査必携「野帳」』（7月投稿）</li> </ul> <p>○通史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新赴任教員用資料 更新</li> <li>・小学校3・4年生向副読本 原稿作成（更新）</li> </ul>
	博物館教育 学校授業・研修会 講座・情報公開	年 間	郷土館・ ふるさと 館JRY	<p>【博物館が持つ過去の生活情報の内、日常生活に活用できるものを体験学習化する。町内各学校授業や各種研修会で歴史学習の機会提供を実施】</p> <p>○開拓の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働体験（薪作り）</li> <li>・炊飯体験（薪ストーブ・羽釜）</li> <li>・開拓期の衣体験</li> <li>・屯田生活体験館の活用（住）</li> </ul> <p>【地域の財産である遺跡に触れ、親しむ機会の提供】</p> <p>○先史文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺跡を理解するモノづくり学習（土器・勾玉）</li> <li>・遺跡フィールドワーク</li> <li>・発掘調査報告会（仮）</li> <li>＊調査成果に応じて実施を判断する</li> <li>・発掘調査現地説明会の開催について検討</li> </ul> <p>○博物館だよりの発行（湧く湧く内、HP）</p> <p>○郷土史に関する情報提供及び質問対応（レファレンス）</p>		<p>【学校授業、研修会等の学習機会提供】</p> <p>○見学及び授業件数（2月28日現在）</p> <p>①ふるさと館JRY：34件659人（内学校：24件459人）</p> <p>②郷土館：9件184人（内学校：4件115人）</p> <p>③出張講演：16件488人（内学校：13件384人）</p> <p>④施設利用：69件1649人</p> <p>【講座等】</p> <p>○川西2遺跡発掘調査現地説明会、郷土館展示解説会 9月16日(月)9：30～12：00 参加者数：24人</p> <p>○川西2遺跡 令和元年度発掘調査成果報告会 11月23日(土)13：30～15：00 参加者数：47人</p> <p>【情報公開】</p> <p>○広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館だよりの発行（湧く湧く内）：4～3月号（112号～123号）</li> </ul> <p>○郷土史に関する問い合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8件（屯田兵祖先調べ、遺跡など）</li> </ul>

令和元年度 関連事業（後援・連携事業等）

団体名	事業名	期日	場所	計画内容等	実績（状況）等	備考
青少年指導	子ども会フットベースボール大会	6/23 (日)	湧別小グラウンド		6チーム（内、※湧サ3チーム）78名参加 5/21 監督会議	※湧サ＝湧別地区サポート協議会
	子ども会交通安全駅伝競走大会	8/25 (日)	開盛小 → 中湧別小	単位子ども会の大会への参加を通して、青少年の健全育成を図ると同時に、地域子ども会活動の促進と、相互の交流を図る。また、監督会議や反省会等を通じ、育成会からなる組織運営の健全化を図る。	10チーム（内、湧サ5チーム） 90名参加 7/17 監督会議	
	子ども会ミニバレーボール大会	10/6 (日)	中湧別総合体育館 湧別総合体育館		小学生の部：10チーム54名 中学生の部：12チーム56名 （内、湧サ4チーム）9/12監督会議	
	遠軽ブロック子ども会スポーツ交流会	廃止	湧別町	上部の目標大会を設定し出場を目指すことで、地域子ども会の活性化と交流を図る。近年、他町の参加が少ないため、事業の在り方を3町で検討する。	参加チームの減（遠軽・佐呂間）から中止となった。	
セーター事業	子ども会リーダー研修会	7/29 (月)～30 (火) 3/26 (木)～27 (金)	五鹿山公園 紋別生涯学習センター	社会教育事業 少年教育参照	社会教育事業 少年教育参照	
	中高生リーダーの養成	年間	ふるさと館JRYほか	リーダー研修会の企画運営などを通じた、中・高生リーダークラブ「E=QVL（イークアル）」および「Rainbow prop（レインボープロップ）」と、その指導にあたる青少年指導員の活動を支援し、リーダー養成に努める。	青少年指導員：4名 E=QVL：19名登録 Rainbow prop：4名登録 子ども会リーダー研修会企画会議 7回 7/14～15事前1泊研修会 7/29～30第1回リーダー研修会 11/23～24管内子連リーダー研修会 3/20～21事前1泊研修会（中止） 3/26～27第2回リーダー研修会（中止）	
	管内子ども会育成指導者研究協議会	7/20 (日)	遠軽町	子ども会の育成指導に携わる管内の育成指導者が一堂に会し、研究協議を行い、子ども会の組織運営の充実を図る。 H31持ち回り当番により湧別町・遠軽町の主管。	3名参加 「地域の宝を守り、未来につなげる～白滝ジオパークの取り組み～」と題して、埋蔵文化センターの見学や黒曜石のアクセサリーづくり等を行った。	
青少年問題協議会	青少年問題協議会の開催	6/21 12/20	文化センターさざ波	青少年の指導・育成、保護、矯正に関する町の総合的な施策の樹立と実施に必要な町内の関係機関の協議および連絡調整を図る。廃止を含め協議会のあり方についても検討したい。	第1回6/21開催18名参加 第2回12/20開催14名参加 協議会のあり方を話し合い、廃止条例案が3月議会で可決された。	
町民会議	青少年健全育成町民会議事業	年間		青少年のたくましく健全な成長と青少年問題の理解を深めるとともに健全育成を図る。①あいさつ運動②指導、補導③青少年だより発行④優良青少年表彰	①あいさつ運動②街頭補導③青少年だより発行④優良青少年表彰の実施	
文化連盟	上湧別地区総合文化祭	芸能の部 10月13日 展示の部 10月19～20日	文化センターTOM	町内の芸術・文化関係者による日頃の活動成果の発表の機会と、町民に芸術・文化活動にふれてもらい文化の振興、発展を促します。	芸能の部 12団体 1個人 展示の部 12団体 4個人	
	湧別地区総合文化祭	芸能の部 11月2日 展示の部 11月1日～2日	文化センターさざ波		芸能の部 8団体 1個人 展示の部 10団体 6個人	
まいもるのよらっこまつり	芸術鑑賞会	通年	文化センターTOM	6月8日(土) ハネロへのなかよし音楽会（親子向け） 8月29日(木) 小遊三・ナイツの湧別寄席	観客数計 855名 （ハネロへ283名、寄席572名）	
ビッグ・ウェイブ	芸術鑑賞会	通年	文化センターTOM	11月23日(土) オホーツク歌のステージ「炎歌人」	観客数 552名	
体育協会	【新規】 ゆうべつ五鹿山マラソン2019	5/12 (日)	五鹿山スキー場	合併10周年を記念し、五鹿山スキー場を駆け上がるマラソン大会を実施することにより、町民の体力増進や健康づくりを高めるきっかけづくりと地域の更なる一体感の醸成を図ることを目的とする。	大会参加者 一般の部（男子54名・女子25名）79名 高校生（男子の部） 5名 中学生の部（男子9名・女子3名） 12名 小学生（高学年）の部 20名 小学生（低学年）の部 40名 合計156名	教委、スポーツ推進委員も運営協力



実 行 委 員 会	東京経済大学 合気道部合宿	8/25(日) ～ 9/2(日)	湧別武道館	合宿中に行われる公開練習や演武会、教室等の開催により合気道の普及を図るとともに町民との交流を図る。 合宿予定人員：30名予定	東京経済大学合気道部合宿 20名 (生徒17名、師範、監督、コーチ) ①朝練、稽古(午前、午後) ②小学生対象の合気道体験指導、演武会 8月31日(土)	湧別町合気道協会
	三井住友海上 女子柔道部合宿	7/12(金) ～ 17(水)	湧別総合体育館	三井住友海上女子柔道部合宿の実施及び柔道教室を開催することで柔道の普及、また町民との交流を図る。 事業主体：三井住友海上女子柔道部 連携団体：上野三姉妹湧別後援会	三井住友海上女子柔道部合宿 27名 (選手14名、監督、コーチ、トレーナー外) 7/12～17 練習(公開) 7/14 柔道教室 参加者(道内道場・少年団9団体 89名、町内柔道体験教室参加者25名)	上野柔道三姉妹湧別後援会
	鷹の台合気道 同友会(東京都)合宿	9/20(金) ～23(日)	レイクパレス	町内で合宿を行い、公開練習等を通して町民と交流を図るとともに合気道の普及を図る。 合宿予定人員：30名予定	鷹の台合気道同友会合宿 9名 ①朝練、稽古(午前、午後) ②練習見学会(21日、22日、23日)	湧別町合気道協会
	北柔会関連道 場柔道合宿	10月12日 (土) ～14日 (月)	湧別武道館	柔道合宿のほか、町内の子ども達に対する柔道教室を開催することで、柔道の普及、交流人口の拡大を図る。 合宿予定人員：80名(指導者含む)予定	合宿参加人数56名 (小学生13名、中学生12名、高校生21名、指導者10名) 北柔会道場 26名 えりも柔道少年団 13名 東海大附属高等学校 17名 練習の他に柔道大会前日の柔道教室参加、大会の参加、高校生については大会の協力。	上野柔道三姉妹湧別後援会
	湧別原野林-ツ クリカントリー-社 大会	2月23日 (日)	遠軽町→湧別町	原野コース80km、北大雪コース56km、遠軽コース22km、湧別コース24km、10kmコース、5kmコース、駅伝コース95km	少雪の影響により中止	



令和元年度社会教育施設整備計画（主要なもの）				
		（単位：千円）		
施設名	改修・整備等内容	事業費	実績額	備考
旧青年会館	旧青年会館解体工事	2,800	2,657	
農村環境改善センター	防火扉取替（2箇所）	843	810	
文化センターさざ波	調光設備取替工事	61,600	60,500	
	冷温水発生機修繕	0	1,210	
文化センターTOM	非常灯取替修繕	3,359	3,132	
湧別総合体育館	トレーニング機器借上（5年リース） トレッドミル、アップライトバイク インパクトチェストプレス インパクトラットプルダウン インスティンクトベクトラルフライ/リアデルト インスティンクトレッグプレス/カーフ インスティンクトレッグエクステンション/カーフ 各1台（合計7台）	1,298	1,298	12ヶ月分
	柔道畳購入	4,367	4,320	備品
	トレッドミル（ランニングマシン）購入	1,610	1,608	備品
中湧別総合体育館	耐震改修等実施設計委託	13,780	13,090	
湧別屋内ゲートボール場	外壁塗装工事	20,900	18,360	
湧別運動公園	野球場フェンス改修工事	35,500	34,298	
	PG場芝補修修繕	540	540	
芭露パークゴルフ場	芝刈機刃取替修繕	482	482	
	芝補修修繕	1,188	1,188	
五鹿山パークゴルフ場	乗用型芝刈り機購入	2,900	2,479	備品
五鹿山スキー場	五鹿山スキー場トランス取替工事	1,700	1,610	
図書館	図書館システムPC一式	3,353	3,338	備品
ふるさと館JRY	JRY換気扇改修	1,000	967	

## 5 外部評価

### (1) 学識経験者

氏 名	所 属 等
牧野 裕司	元 湧別町教育委員会教育長

### (2) 聴取日

令和2年8月25日（火）

### (3) 主な意見

本件の「教育委員会点検・評価報告書」の内容については、湧別町教育行政執行方針に基づき、主要な事業ごとに適切に整理区分され、点検評価表としてまとめられており、平成31年度・令和元年度の事務事業については、当初の目標どおりに執行され、総体的に評価できると考えます。

#### ア 教育委員会の活動状況

教育委員会は独立した行政機関として教育長及び4名の教育委員が定例会議（12回開催）と臨時に開催された臨時会議（1回開催）において、慎重審議が行われ、多様化・複雑化する教育環境の変化に対応するべく適正にその機能を果たしてきたものと認められます。

審議状況を見ますと、法令又は条例に基づく委員等の任命に関することや法規たる性質をもつ教育委員会告示、規則・規定の改正に関することが多く審議され、町内全ての学校に学校運営協議会が設置されたことによる学校運営協議会委員の任命やその他各種委員会委員の委嘱等が適切に行われたこと、また、国の制度改正や社会の実情に合わせ、関係条例等の改正について十分な協議がなされたことが窺い知れます。

教育委員会会議では、教育予算等の基本的な審議に加え、「湧別町社会教育推進計画の策定」や学校における働き方改革「湧別町アクションプラン」の改訂、湧別町学校施設長寿命化計画などについてなどの重要な計画についても協議がなされており、また3月には予期せぬ事態となりました新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る対応について、児童生徒の安全な学校生活のため、検討協議がなされたものと思います。

教育委員会会議以外では、各種行事に参加されており、また、学校訪問で現場の状況を把握されるなど、積極的に活動されていると判断できます。

## イ 学校教育について

児童生徒への指導を充実させ、教員が子どもたちと向き合う時間を確保するため、教職員の働き方改革「湧別町アクションプラン」を改訂し、その取り組みを徹底していることがわかります。

小中連携教育の推進のため、義務教育学校導入の検証を行い、芭露学園での効果が確認できています。このことを踏まえ、湧別小学校・湧別中学校の小中一貫教育を推進すべき、新校舎建設用地の取得交渉を進められたことは大変評価します。今後、湧別小学校・湧別中学校の小中一貫教育のますますの推進が図られますことを期待します。

児童生徒の学力向上のため、教職員定数加配を活用し指導方法の工夫・改善が実施されていることがわかります。湧別高校生協力のもと、児童へ行われている学習サポート事業は小学生・高校生両方において利点となっているものと考えます。また、教育アドバイザーの定期的な学校訪問は、学校経営支援のため大変有益であり、児童生徒の学力向上のためにも重要だと考えます。

学校施設における長寿命化計画の策定がされたことは、児童生徒の安心安全を確保する教育環境整備のために必要であり、今後も計画的に施設改修や維持補修を実施されることを望みます。

道徳教育を推進し、基本的な生活習慣や協力し合う態度なども指導しており、優しさと思いやりの心を育てる教育ができていると感じます。また、いじめのアンケート調査もされており、問題行動の未然防止、発見解消が図られています。

特別支援教育支援員の配置や、発達障がい支援成果普及事業を活用するなど、特別な教育的支援を要する児童生徒への支援体制が取られています。

北海道湧別高等学校存続対策事業においては、2間口確保のため各種補助事業を行っており、今後も引き続き入学者の確保に繋がるような支援を期待します。

町内全ての学校に学校運営協議会が設置され、地域住民が学校の活動に参画する環境が整い、地域と連携した学校づくりが進むものと期待します。

## ウ 社会教育について

社会教育事業では民間団体と連携しながら、各世代において様々な事業が

実施され、生涯を通して学ぶ機会が提供されているのがわかります。

スポーツ振興事業では、トレーニング室に機器が導入され、また、指導職員も配置されるなど、町民の健康づくりや体力向上のための態勢が図られています。また、体育協会主催の「五鹿山マラソン」が初めて開催されるなど、町民の体力増進や健康づくりを高めるきっかけづくりになっており、大変評価できます。

芸術文化活動振興事業では、幼児から一般まで各世代に合った芸術鑑賞事業を提供したり、札幌交響楽団を招致するなど、町民が芸術文化に触れる機会が提供できています。また、文化センター等の施設整備が適切に行われているのがわかります。

文化財保護活動・博物館活動では、埋蔵文化財調査、竪穴住居跡の発掘が行われており、遺跡の情報収集と調査が進められています。また、体験学習が町内各学校に提供されており、博物館の学校に対する博物館教育としての役目を果たしています。

図書館活動では、新たに絵本作家を招いた「絵本講座」が開催され、既存の事業と合わせて、読書に親しむ機会が提供できています。図書館が、町民の憩う場としてますますその機能を果たし、子どもたちに読書活動が広まっていくことを期待するところであります。

## エ 終わりに

教育委員会は、各種多様な事業を展開・活動しており、町民からの要望も多くあるところであります。多くの教育課題解決や幅広い町民ニーズへの検討、事業の充実に向けて日々努力されていることに、敬意を表します。

少子高齢化が進み、個々の価値観が変化しつつある現代では柔軟な発想が求められ、また、関係機関との連携も必要であります。学校、地域、行政が一体となり、湧別町の教育がますます発展するための取り組みを期待します。

実施事業ごとの点検・評価では、課題に対する改善方策が適切にまとめられておりますので、今後も地域からの意見を取り入れ、改善方策を反映した教育行政の執行がなされることを期待します。

## 6 参考資料

### 平成31年度

#### 湧別町教育委員会教育行政執行方針

平成31年第1回町議会定例会の開会にあたり、教育委員会の所管行政に関する主要な方針について申し上げます。

我が国では少子・高齢化が進行しており、それにもなつて教育のあり方も大きく変化しております。

そのような中、小・中学校や高等学校は、児童生徒数の減少や多様化・複雑化する社会状況の変化の下、全国的に学校の再編統廃合が進んでおります。

一方で少子化による学校の小規模化に伴う教育上の問題の顕在化や学校がなくなることによる地域コミュニティの衰退が懸念されており、各市町村の実情に応じた活力ある学校づくりが求められております。

同時に教育は、社会の変化に対応して絶えずその在り方を見直していかなければならないものであり、経済・社会のグローバル化、高度情報化やネットワーク社会など、時代の変化に主体的に対応し、日本の未来を担う人材を育成する教育が重要になっております。

教育委員会といたしましては、子どもたち一人ひとりに、確かな学力、豊かな人間性、自らを律する心、健康・体力「知」・「情」・「意」・「体」をバランスよく育てることが重要であり、さらに郷土を愛し守る心「郷土」を加えた5つを本町の学校教育の柱として進めてまいります。

生涯学習にあっては、時代の変化とともに人々の価値観やライフスタイルは多様化してきており、このような中で、町民一人ひとりが、心の豊かさや生きがいを実感できる生活を享受するために、湧別町の自然、産業と文化を活かし、生涯にわたって、ともに学び、育み、高めあいながら行う学習活動を支援するとともに、いつでも、どこでも、だれもが学ぶことのできる生涯学習社会の実現に努めてまいります。

これを進めるために教育委員会では、「ふるさとを知り、ふるさとを好きになり、ふるさとを守り育てる」を基本理念として、

- 1 社会に参画できる実践的な能力をはぐくむ
- 2 自他を尊重し、ともに支える豊かな心をはぐくむ
- 3 自らを律し、自ら行動する積極的な心をはぐくむ
- 4 健やかな体と生命を尊ぶ心をはぐくむ

5 自然・環境を守り、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度をはぐくむ

以上、5つを教育目標に制定しております。町民の皆様とともに、湧別町の教育をさらに推進してまいります。

このような考えのもと、平成31年度に教育委員会として取り組む重点施策について申し上げます。

**第一に、「地域に期待、信頼される学校づくりについて」であります。**

子どもたちが、安全で快適な学校生活を送ることができるよう、学校、家庭、地域が互いに連携し、質の高い教育活動を推進してまいります。

教員は、豊かな人間性や社会性、そして高い指導力などの資質・能力が求められておりますことから、分かる授業の実践を基盤とした校内研修の充実はもとより、各種研修会や研究会などへの参加を促進し、指導力の向上を図ってまいります。

現在、学校には、学習指導要領のねらいや社会からの要請等を踏まえ、児童生徒に対する指導を一層充実させることが期待されており、その実現に向けては、道内全ての学校で、教員が授業や授業準備等に集中し、健康でいきいきとやりがいをもって勤務しながら、学校教育の質を高められる環境を構築することが必要であり、教員が子どもと向き合う時間を確保するための取組の充実が喫緊の課題となっております。

こうした状況を踏まえ、平成30年3月道教委が主導して、道内の全ての学校において、働き方改革を行うため、業務改善の方向性を示した「学校における働き方改革『北海道アクション・プラン』」が作成されましたので、教育委員会におきましては、北海道アクション・プランに則り、町立学校における働き方改革を進めるための計画等の作成に努めてまいります。

また、平成30年4月、本町で初となる義務教育学校「芭露学園」が開設されました。芭露学園は9年間一貫した教育目標のもと、教科担任制を導入し、各教科の専門性を生かした指導により、学びの連続性が生まれ、個の能力をさらに伸ばすことができるといった特徴ある小中一貫校であります。

今後におきましては、義務教育学校導入による児童生徒の学習内容や学校生活、前期課程と後期課程の教職員の意識面の変化等について、教育効果の検証を行い、湧別町が目指す小中連携教育の取り組みに反映してまいります。

学校配置につきましては、児童生徒により良い教育環境を提供できる適正規模の学校を将来にわたって提供していくことが重要であります。このため今年度から将来の学校配置のあり方について検討を進めることとし、特に老朽化がすすむ湧別小学校については、今後の児童数の推移を見ながら小中連携教育を

基本とした施設整備について検討を進めてまいります。

**第二に、「学校教育における学力向上への取り組みについて」**であります。

本町の学力は、全国学力・学習状況調査では全国平均に比べ長年にわたり低い状態が続いており、特に家庭学習時間の不足など学校外における家庭学習の習慣化が大きな課題となっております。

このため、教育委員会としては学校との連携により児童生徒の現状と課題を詳細に分析するとともに、各学校の取り組みを情報共有する体制をつくり、湧別町全体の学力向上を図ってまいります。

あわせて、これら学校での学力向上の取り組みは、保護者及び学校運営協議会とも連携して地域とともに学力向上を図ってまいります。

学校図書室は、町立図書館司書による学校図書室支援事業を継続し、児童生徒への読書活動の推進による学力向上に繋げてまいります。

また、現在、小学校及び義務教育学校の3、4年生が社会科の授業において、ふるさと湧別を学ぶための資料として使用している社会科副読本「ゆうべつ」についてであります。2020年度から小学校の学習指導要領が改訂となることに伴い、新しい学習指導要領に沿った副読本とするため、内容を見直し新たに作成を進めてまいります。

**第三は、「安全・安心な学校づくりの推進について」**であります。

学校は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習活動の場であり、住民の避難施設でもある学校施設の安全性の確保と施設環境向上のため、地域と連携・協力した地域ぐるみの防犯体制の整備・充実に努め、児童生徒の安心・安全を確保する教育環境整備をしてまいります。

学校施設整備は、平成29年度までに全ての学校における校舎、体育館の耐震化が図られ、安全で安心して学習できる環境となりました。

今後の施設整備は、国の方針に基づき、本年度は、学校施設における個別施設の長寿命化計画を策定してまいります。

また、開盛小学校の煙突については、平成28年度に行った調査により集合煙突にアスベストの含有が認められ、煙突の劣化が進行していることが判明したことから、「町有施設煙突アスベスト改修実施計画」に基づき、煙突のアスベストを除去し安全の確保に努めてまいります。

**第四は、「豊かな心と健やかな体の育成について」**であります。

未来を担う子どもたちが互いを尊重し、ともに支え合いながら社会の一員と

して成長していくためには、心身の健やかな発達を支えていくことが重要です。

とりわけ、道徳教育については、道徳が特別の教科として位置付けられたことをふまえ、規範意識や倫理観、命の大切さや思いやりの心などを育むとともに、体験活動を通して豊かな人間性や社会性、やさしさと思いやりの心を育ててまいります。

また、いじめの問題につきましては、人として絶対に許されない行為であることを指導するとともに、未然防止、早期発見、早期解消を図るため、アンケート調査などによる実態把握と日常的な指導とあわせて、関係機関とも連携しながら対応してまいります。

健やかな体の育成につきましては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査などから、成果と課題を分析し、望ましい運動習慣を定着させるための取り組みを推進してまいります。

フッ化物洗口事業は、平成30年度から全ての学校で実施しておりますので、引き続き本年度も取り組んでまいります。

「オール湧別」の部活動については、少子化による生徒数の減少により、学校単位での部活動運営が困難な状況が生じていることから、生徒が他校の運動部活動に参加する「オール湧別方式」（学校間連携方式）を導入して、運動部活動の環境整備を図ってまいります。

この方式は、単一の学校では特定競技の運動部を設けることができない場合の生徒が、他校に設置された運動部の活動に参加できる「合同部活動」を可能とするものであります。尚、文化部活動についても、生徒の文化活動の機会が損なわれることのないよう、この方式の導入を検討してまいります。

#### 第五は、「特別支援教育について」であります。

特別な教育的支援を必要とする児童生徒一人ひとりの能力、特性に応じた個別の指導計画と教育支援計画を整備し、教育のみならず、医療、福祉、保健等を含めた関係機関が連携を図り、計画的・組織的な教育活動を推進してまいります。

また、通常学級に在籍し特別な支援を必要とする児童の学習や学校生活を支援する特別支援教育支援員については、担任と連携しながら個々の児童に応じた支援体制の充実を図ってまいります。

さらに、湧別小学校では平成30年度より、通常学級に在籍しながら、一定の時間、別の教室へ行き個別指導や少人数指導を行う通級指導教室を実施していますが、今年度は湧別小学校に特別支援教育のセンター的機能を持たせ、湧別小学校以外の学校に出向き指導を行い、特別支援教育の質の向上を図ってまいります。

#### 第六は、「就学支援の充実について」であります。



児童生徒の就学に関わり、経済的理由によって、就学が困難な家庭における教育費の負担軽減を図るため、就学援助制度を適正に運用し、公平で的確な支援に努めてまいります。

尚、平成30年度から開始しました入学準備金の入学前支給について今年も継続してまいります。

また、教育の機会均等と教育の振興を図るための制度であります湧別町奨学金の貸付につきましては、一般に学校卒業後の数年は収入が少なく経済的に自立するには厳しい環境にあることから、償還期間を現行の6年から11年に延長して毎年の償還額を低くすることで、奨学生の安定した社会生活を支援いたします。

#### 第七は、「中高一貫教育の充実について」であります。

中高一貫教育は、生徒たちが、中学校・義務教育学校後期課程と高等学校の6年間を一貫した教育課程のもとで学ぶことにより、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人ひとりの個性をより重視した教育の実現を目指すものであります。

中高一貫教育の理念であります「地域の子どもは地域で育てる」のもとに、中学校2校と義務教育学校そして北海道湧別高等学校、さらには地域が一体となって、より一層の充実と発展を期すことができるよう支援してまいります。

#### 第八は、「北海道湧別高等学校への支援について」であります。

湧別高校は、本町の人づくりや地域活性化の視点からも重要であり、湧別高校の2間口維持は不可欠であり、重要な課題であると考えております。

近年、地元生徒数の減少や進路志向の多様化により、湧別高校への志願者が減少する中、湧別高校の魅力ある学校づくりにつながる取り組みが必要であります。

本年度も「北海道湧別高等学校の存続対策事業」として、引き続き各種助成事業による支援を行うとともに、遠方から通学する生徒の経済的負担をさらに軽減するため、新年度入学生から3万円を限度に通学費の全額補助を行なって、生徒数の確保に繋げてまいります。あわせて、少人数ながらも活躍している部活動が、各種大会に参加するのに必要な貸切バス等の費用についても新たに支援してまいります。

また、生徒との意見交換を行って、さらなる湧別高校の魅力向上となる支援策について検討を重ね、入学者の確保に繋がるよう支援してまいりたいと考えております。

**第九は、「国際理解教育の推進について」**であります。

平成30年度より新しい学習指導要領への移行期間となり、小学校3・4年生への外国語活動が取り入れられ、5・6年生は外国語教科となることに伴い授業時数が増加したことから、外国語指導助手につきましては、カナダとニュージーランドから3名を雇用して、町内の小・中学校及び義務教育学校並びに湧別高校に派遣し、生きた英語を学ぶ授業のサポートをするとともに、町内における国際理解教育の推進に努めてまいります。

また、友好都市であるニュージーランドのセルウィン町及びカナダのホワイトコート町への中学生・高校生の交換留学事業を継続して行い、相互交流事業につきましては、本年度ニュージーランドへの派遣を実施し交流を継続してまいります。

**第十は、「学校運営協議会の設置について」**であります。

湧別町立小・中学校適正配置計画を基本に、次代を担う子どもたちが、明るく、たくましく、心豊かに育つための教育環境づくりを目指し、「地域とともにある学校づくり」を進めるため、現在、町立小・中学校及び義務教育学校5校を指定校として学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置しており、本年、残す2校に協議会を設置し、地域住民が学校の諸活動により一層活発に参画するための支援の充実を図ってまいります。なお、町内すべての学校に協議会が設置されることから、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組みを構築し、横断的ネットワークによる連携・情報共有に努めてまいります。

**第十一は、「学校給食センターの運営について」**であります。

学校給食につきましては、学校給食衛生管理基準に基づき、施設内における衛生管理の徹底に努めるとともに、安心で安全な地場産や北海道の食材を優先的に購入し、児童生徒の心身の成長と健康を支える上で必要な、バランスのとれた給食づくりを行ってまいります。

また、栄養教諭の指導により、学校給食を生きた教材として活用し食の大切さや、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう努めてまいります。

なお、食物アレルギー等を有する児童生徒への対応等につきましては、家庭及び学校と連携を図り、代替食等の提供が適切に行われるよう努めてまいります。

今年度の給食費につきましては、昨年同様1食当たり小学校247円、中学校285円で提供してまいります。

施設につきましては計画的に整備しており、本年度から4年計画で厨房機器の更新を実施してまいります。

第十二は、「社会教育の振興について」であります。

社会教育では、計画2年目となる「第2次社会教育中期計画」に基づき、町民のみなさんが生涯学習を通して豊かな人間性を育める環境となるよう、それぞれの分野における取り組みを進めてまいります。

家庭教育はすべての教育の原点であります。

子どもたちの健やかな成長を育む基礎となるものでありますが、近年、核家族化や地域でのつながりの希薄化等を背景とした家庭教育における様々な課題が指摘されています。

子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立してしまうことのないよう、新たに教育、子育て、保健福祉担当者による「家庭教育」に係る庁舎内組織を充足させ、情報の提供や共有、研修会の開催など、家庭での教育に対する横断的な支援体制を整備してまいります。

また、民間団体が行っている子どもの成長を応援する自主的な活動につきましても支援に努め、地域全体で子どもを守り育てていく環境の整備に努めてまいります。

少年教育についてであります。次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに成長することは、地域社会にとって変わらぬ願いであります。

家庭や学校、地域、青少年指導センターをはじめとする関係団体との連携により、人間性を養う学習機会の提供に努めるとともに、次代を担う中高生リーダーや成人指導者の養成にも努めてまいります。

青年教育についてであります。個々の価値観が変化し、団体離れが進んでいると言われていたなか、本町の青年団体協議会につきましては、各種イベントへの参加協力や、昨年、友好都市提携15周年を機に交流が始まった新篠津村青年団との交流を今年も継続するなど、地域に根ざした活動を地道に展開しております。今後も自主性を尊重しながら活動の支援に努めてまいります。

成人教育についてであります。成人期の多岐にわたるニーズや課題に応じた学習機会や情報の提供に努めるほか、町民の貴重な学習機会として民間団体により開催されている「町民大学」や「ふるさと講座」につきましても、活動の輪がさらに広まるよう、支援に努めるとともに、町民が企画開催する自主事業については、生涯学習振興奨励事業補助による支援を行い、学習成果が地域等に還元できる環境づくりに努めてまいります。

高齢者教育についてであります。昨年度統合された「チューリップ生きがい大学」は学生である高齢者のみなさんの自主的な運営により、学習・交流の場として生き生きと活動されております。

今後も加入者増に努め、高齢者の知識や経験が広く地域に活かされ、生きがいのある充実した生活につなげていただけるよう活動内容の充実に努めてまいります。

ます。

**第十三は、「スポーツ活動の振興について」**であります。

スポーツは、健康増進・体力向上のほか、コミュニティの形成においても重要な役割を担っております。

本年度においても、体育協会をはじめスポーツ少年団や自治会等と連携し、年齢層に応じた各種大会や教室を開催し、生涯スポーツの推進に努めるとともに、町民のスポーツ活動を牽引する指導者の育成や養成に努めてまいります。

また、本年度も町民の健康づくりや体力向上を図るため湧別総合体育館のトレーニング室に、機器を更に導入するとともに、今年度からは利用者の多様なニーズに沿った効果的な指導が行えるよう、トレーニングの知識を有する職員を配置し、町民の皆さんの健康づくりに努めてまいります。

また、「サロマ湖100kmウルトラマラソン」や「上野カップ少年柔道大会」の開催、合宿誘致事業につきましても、交流人口の増加や町民への実技指導、交流などが図られており、引続き支援をおこなうなど、スポーツの普及と振興に努めてまいります。

**第十四は、「芸術文化活動の振興について」**であります。

優れた芸術文化は、町民一人ひとりの創造性をはぐくみ、より良い人生を築く糧となるものです。

本年度においても優れた芸術文化に触れる機会を提供するため、文化連盟をはじめとする各種団体の活動や、町民有志団体による鑑賞機会の提供を支援し、町内の芸術文化の普及に努めてまいります。

生涯学習活動の拠点となる社会教育施設につきましては、今後も町民が気持ちよく利用できる施設の管理運営に努めてまいります。

いずれの施設も建設してから相当の年月が経過し、老朽化が著しくなっていることから、本年度は、2カ年で実施している文化センターさぎ波の調光設備改修のほか、中湧別総合体育館の耐震設計、湧別ゲートボール場の外壁改修などを行い、計画的な整備を進めてまいります。

また、今年度は合併10周年の年となることから、記念事業として、札幌交響楽団による演奏会を開催し、それに併せて小中高吹奏楽部への楽団員による指導機会をもうけるほか、町民大学など関係団体が開催する合併10周年事業への支援を行い、町民の皆さんが生涯学習をとおして、さらなる湧別町の発展に向けた豊かな人間性を育む取組を進めてまいります。

**第十五は、「博物館及び文化財保護活動について」**であります。

今日の湧別町があるのは、先人たちが多くの苦難を乗り越えて、故郷であるオ

ホーツク原野の開拓に尽くしたからであり、その貴重な資料を保存、展示しているふるさと館JRYと郷土館につきましては、既存の資料の整理及び集約と保護活動をこれからも継続して行ってまいります。

文化財につきましては、本町には56ヶ所に及ぶ埋蔵文化財とアッケシソウ群落などの自然文化財があります。特に、北海道指定文化財である「シブノツナイ 竪穴住居跡」につきましては、北海道教育委員会により平成27年から29年まで3カ年で再調査が実施され、昨年度からは本町が主体となって、詳細な調査を実施いたしました。本年度も引き続き調査を実施し、現状把握と遺跡の基礎情報の収集を行ない貴重な文化財を将来へと引き継いでまいります。また、見学会や報告会の実施、発掘調査報告書の発行公開等を実施し町民の文化財への理解を広げてまいります。

#### 第十六は、「図書館活動の振興について」であります。

図書館は、町民の方々の多様なニーズに対応するため、司書の持つ専門的知識と的確な判断により資料の収集、整理、提供に努めております。平成29年度に策定いたしました「湧別町子どもの読書活動推進計画」に基づき、保育所や学校等の関係機関と連携し、本町の子どもたちの読書環境の充実に努めてまいります。

子どもが読書活動を始めるきっかけとして「絵本」があります。赤ちゃんが生まれたときに絵本をプレゼントする「ブックスタート」事業、ならびに5歳でもう1冊絵本をプレゼントする「ブックスタートプラス」事業を継続して実施してまいります。

また、「絵本」を通じて「本との出会い」「本に親しむ」ことを目的として、本年度より絵本作家を招き「絵本講座」を開催いたします。

これからも、図書館が町民の憩いの場として、学び楽しめる町の情報拠点となるよう努力してまいります。

以上、平成31年度の教育委員会の所管行政に関する主要な方針につきまして申し上げます。

教育委員会では、「ふるさとを知り、ふるさとを好きになり、ふるさとを守り育てる」を基本理念として、学校・家庭・地域の協力をいただきながら、生涯学習社会の実現を図ってまいります。

学校教育と社会教育を両輪として、すべての町民が生涯学びつづけることができる環境づくりのため、本町の教育振興に全力で取り組んでまいりますので、町民の皆様並びに町議会及び教育関係者のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

## 湧別町教育目標

- 1 社会に参画できる実践的な能力をはぐくむ
- 2 自他を尊重し、ともに支える豊かな心をはぐくむ
- 3 自らを律し、自ら行動する積極的な心をはぐくむ
- 4 健やかな体と生命を尊ぶ心をはぐくむ
- 5 自然・環境を守り、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度をはぐくむ

(平成24年2月21日制定)

## 湧別町学校教育目標

- 1 自ら学んで、知性を高め、正しく判断する子どもを育てる
- 2 思いやりの心を持って、お互いに協力する子どもを育てる
- 3 忍耐力と自律の心を持ち、進んで行動する子どもを育てる
- 4 健やかな心身を持ち、自他の生命を尊重する子どもを育てる
- 5 ふるさとに学び、ふるさとを愛する子どもを育てる

(平成24年2月21日制定)

## 湧別町社会教育目標

- 1 自ら学び、地域に生かせる人を支える
- 2 他人を思いやる、あたたかく豊かな心の人を支える
- 3 人と人とのつながりを深める人を支える
- 4 健やかな心と体をめざす人を支える
- 5 ふるさとを知り、愛する人を支える

(平成25年3月28日制定)

